

♥結婚相談室♥

相談日:原則として毎月第2、第4土曜日・10:30～16:00  
(10月第4土曜日は相談日に変更になる場合があります。)  
休室:8月第2土曜日、12月第4土曜日  
会場:実践桜会会館  
入会資格:本校卒業生及び卒業生のご紹介の心身共に健康な男女  
入会金:2万円、書類代:1千円  
入会時に持参するもの:入会ご希望の本人直筆の履歴書  
写真5枚(本人のみ、スナップ可)  
☆秘密厳守で評判の良い相談室です。  
☆詳細は相談日にお問い合わせください。  
連絡先:TEL03-3407-7459 (実践桜会会館)

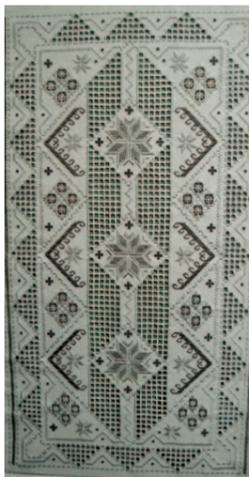
ハーダンガー刺繍教室

ハーダンガー刺繍は、ノルウェーの刺繍です。目の粗い白地の布地に白糸で布目を一目一目数えながら刺し、さらに織り糸を抜いてかがっていく技法です。

レースのような透かし模様が出来ます。初めての方でも少し慣れるととても楽しい刺繍です。

お教室内では布は糸の色目を変え、素敵な作品を見せ合いながら和やかな雰囲気になっております。どうぞ見学にお出かけ下さい。

講習日:毎月第2木曜日 11時～15時  
会費:1,500円  
講師:坪井初代先生  
持参品:先の切れる小鋏  
連絡先:3307-6472 中岡久恵



実践桜会囲碁教室

大学学生ボランティアの「宮古市支援プロジェクト」関係者からのお誘いにより、有志が仮設住宅の中で『初心者向け囲碁教室とお茶の集い』を催しました。学生をはじめ全く初めての方と高段者が参加され、囲碁を通じて交流がはかれました。(S.M)



宮古での囲碁教室

教室の開室予定日  
10/5,10/19,11/9,11/30,12/14,12/21  
2016年 1/18,1/25, 2/8,2/22,3/14,3/28 13:00～16:00  
自由対局 10/26,11/16,3/7 10:30～16:00 まで  
会費:一回 1,000円(自由対局 500円)  
講師:柳川正興(アマ6段)  
連絡先:TEL 03-3407-7459 実践桜会

実践桜会会館・貸室のご案内

明るい新会館をクラス会、サークル活動、各種打ち合わせ等にお気軽にご利用ください。詳細は実践桜会事務局(TEL03-3407-7459)へお問い合わせください。



ハワイアンスクール  
第1・第3火曜日に開室。  
健康フラとウクレレでリフレッシュしませんか?  
講師:太田紀美子(NPO法人日本アロハ協会理事)

【編集後記】

●未来へ「つながり」「羽ばたく」が今号のテーマです。地域交流を推進し、ネットワークをより強力にするためのコミュニケーションツール「なよたけ」を心がけてきました。そういう意味で、11月の全国の会員の皆様が集う岩村交流ツアーは深いものがあります。岩村でお会いしましょう、そして下田歌子先生との旅を楽しみましょう。(建部静代)  
●この夏、宇宙ステーションに必需品を届けるミッションを三人の日本人宇宙飛行士が成功させました。日本人の技術力の素晴らしさ、信頼できる人と人とのつながりに、感動しました。お陰様で情報版21号も無事に発行。実践桜会に携わる皆様のネットワークの強さを心から頼もしく思いました。(松尾千秋)  
●『輝く人』御子柴さんのブログ「御子柴いちご園」を一度覗いてみてください。彼女や座談会に出席した若い卒業生に共通するのは、強い意志を持ちながらも、周りと協調しつつ自分を伸ばす力。それは、下田先生から現代の私達へと受け継がれてきた「実践らしさ」というものではないか、私はそう思います。(青山マキ子)  
●めっきり涼しくなり、苛烈な季節は遠くなるうとしています。馴れないことばかりだった前号とは違い、少しは余裕も出てきました。さて、岩村交流ツアーまで、あとひと月ほど。「なよたけ」でつながる縁を楽しみにしています!(山口みなみ)

【寄附者ご芳名】(敬称略)

鍛島康子、福村和子、篠田俊子、柳川仲子、浦上淳子、西向みち子、川口敏乃、佐野滋、鈴江睦、福士僉子、鈴木真知子、戸野原須賀子、角田米子、実践桜会宮城県支部、実践桜会福島支部

編集・発行:一般社団法人教育文化振興 実践桜会  
編集・発行人:浦上淳子  
〒150-0011 東京都渋谷区東 1-1-40  
TEL:03-3407-7459 FAX:03-3499-0835  
HP:http://www.j-sakura.org  
広報部メールアドレス:  
jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp  
振込口座:東京 00190-0-2384  
転居された場合はご連絡ください。  
印刷:凸版印刷

なよたけ

情報版  
2015.10.1  
no.21



下田歌子著作集  
『香雪叢書』第四巻  
(昭和8年3月20日発行)

実践桜会行事日程

平成27年	国際交流基金奨学生交流会(於:実践桜会会館)	平成28年
4/初旬 「那与竹」第78号発行	10/8(木) 学祖祭(於:実践桜会会館)	1/10(日) 初春歌舞伎観劇会(於:国立劇場)
4/11(土) 春季運営委員会(於:実践桜会会館)	護国寺墓参、お供え香	1/11(月) 祝成人の会(於:桃夭館)
5/17(日) 定時総会・懇親会 (於:セルリアンタワー東急ホテル)	10/17(土)18(日) 「常磐祭」(渋谷キャンパス) 協賛・桜会賞授与	2/20(土) 実践キャリアネット第2回セミナー 3/5(土) 第2回実践桜会奨学生・ 国際交流基金奨学生交流会 (於:実践桜会会館)
6/20(土) 実践キャリアネット総会	10/24(土)25(日) 実践桜会バザー開催 中高「ときわ祭」に参加	4/初旬 「那与竹」第79号発行
8/29(土) 公開市民講座、地区懇談会開催 (大学短期大学部後援会/実践桜会共催 於:静岡)	11/7(土)8(日) 「常磐祭」(日野キャンパス) 協賛・桜会賞授与	5/15(日) 定時総会・懇親会 (於:セルリアンタワー東急ホテル)
10/初旬 「なよたけ情報版」第21号発行	11/14(土)15(日) 実践桜会全国交流ツアー(岩村)	
10/3(土) 秋季運営委員会(於:実践桜会会館) 第1回実践桜会奨学生・	11/28(土) 実践キャリアネット第1回セミナー	

会費納入のお願い

実践桜会は皆さまの会費で運営されています。年会費2,000円の納入をよろしくお願いいたします。

転居・改姓等をされた方及び会費のコンビニ入金をされる方で住所変更もある場合は、会員番号をご確認の上、実践桜会事務局(TEL:03-3407-7459、FAX:03-3499-0835)までご連絡ください。

# 男女共同参画 推進への取り組み



実践女子学園理事長  
井原 徹

前号で男女共同参画推進のために、本学園が取り組もうとする4本の矢(施策)について述べました。今号では、その後の進捗状況等について述べます。

4本の矢とは、次のものでした。

①理事会の中に「男女共同参画推進担当理事」を置き、推進体制を明確にする。②総務部に「男女共同参画推進室」を設置し、担当理事の室長ほか、室員を兼務ではありますが数人配置する。③学内教職員有志による「男女共同参画推進プロジェクト」の結成(この有志プロジェクトは、来年度に学園の正式な制度である「プロジェクト研究所」となることを目指す)。④「職員職場で男女共同参画を推進するための研修会」を開催し、職場の現実的な課題を抽出し、対応策を講じる。

## 第一・第二・第四の矢

すでに人間社会学部長の広井多鶴子先生に担当理事になってもらい、幅広い活動を開始しています。理事の職務を支援し、展開していく実働隊として、総務部内に男女共同参画推進室を設け、広井理事に推進室長を、図書館の土居道子・図書担当部長を推進担当部長に任命しました。なお、推進室には総務部員2名、キャリアセンター職員1名、中高事務部員1名の兼務体制を敷きました。昨年夏には男女共同参画推進研修会を開催し、「女性教員の集い」の開催、ホームページの見直し、ワーキングネーム使用に関する制度整備を行ってきました。本年3月には「実践女子学園男女共同参画推進宣言」を決定公開しました。5月には早稲田大学名誉教授の岡澤憲芙先生の「社会が変わる・女性が変わる」と題した講演会も開催しています。直近の7月には「男女共同参画推進に関する学科主任、職員部長・次長の意見」を聴取し公開しました。

## 第三の矢

「男女共同参画推進プロジェクト」を発展させ、本年度

学園のプロジェクト研究所制度に基づき「女性キャリア形成研究所」が発足しました。人間社会学部竹内美香教授が所長に就任し、教職員14名の研究員で活動しています。

## 第五の新たな矢

学園として男女共同参画推進を宣言し、研究所で研究し、職員を研修し、学生のカリキュラムも工夫するなどを行ったとしても、学園の職場そのものが男女共同参画を推進していると認識されなければ、「実践女子学園」の名に相応しくありません。

そこで、とりあえず職員の勤務体制を見直し、男女共同参画の職場にする検討を開始しました。職員への全員ヒアリング等を経てそのニーズを確認し、2016年4月からの実施を目途に制度設計を進めています。

男女共同参画社会の形成を阻んでいるのは、会社、大学等の職場における女性の勤務形態への社会的制約です。出産、子育て、介護においては、労働基準法等によって一定期間の補償・保護が法律化されています。例えば子育て中の勤務短縮がそれです。しかし、法律上は子供が3歳までの保護であり、以降は企業等の自主的の任に任せられます。介護休職も短期間です。

介護においては、女性が専ら介護にあたるという図式があるため、女性はどうしても仕事を辞めざるを得ないのが現状です。子育てにおいても、3歳を超えたら手がかからなくなるかと言えば、決してそうはならないものです。

そこで、専任職員の勤務を、本人の自由選択(1年単位)により、例えば一日あたり1時間減、2時間減、3時間減(給料は勤務時間減に応じて減額)を認めることによって、女性の働く道を閉ざさないようにする計画です。

## 第六の新たな矢

さらに本学が、女性の教育機関として存在していくための根本課題にも、真正面から取り組んで行かなければなりません。

現在本学では、企業や自治体等から出された課題にこたえるアクティブ・ラーニングや、女性の労働やキャリア、ジェンダー等に関する授業を多数開講し、学生が現代社会の問題や自らのキャリア形成について、深く考えることができるようにカリキュラムを組んでいます。今後それらにより専門的に学ぶための副専攻「女性キャリア・スタディーズ」を開設する予定です。

女性のキャリア形成と社会進出を支援することが、女子大として果たすべき重要な使命であり、かつ「自立自営する女性の育成」を建学以来の教育理念として掲げる本学に対して、現代社会が与えた最大の使命だと考えるからであります。(いはら とおる)

# 2キャンパス 展開後の動き



実践女子大学・短期大学部 学長  
田島 眞

渋谷地区に新校舎が完成して、早くも1年半を過ぎました。超近代的な建物にも学生さんは慣れてきた頃でしょう。新校舎のお披露目の行事が昨年は続きました。常磐祭も無事に開催いたしました。いろいろと課題も浮き彫りとなってはいますが、鋭意解決を図ってまいります。

諸行事の中で、特筆すべきなのは、山種美術館との共同企画展の開催です。江戸の女性画家と名づけて、山種美術館では上村松園を中心として、実践女子学園香雪記念資料館では、江戸後期の女性画家の作品を展示公開いたしました。NHK、朝日新聞といったマスメディアでも大きく取り上げられ、香雪記念資料館の入館者も期間中、延べ3千人を上回る規模でした。新校舎のお披露目として大成功でした。

## 1. 渋谷地域での各機関との連携

渋谷移転後もソフト面で着々と成果をあげております。大学院レベルですが、青山学院大学との単位互換が始まりました。同じ文学研究科といっても、両大学で行われている研究には差があります。お互いに無い分野を補うことで、大学院教育に相乗効果をもたらします。

近隣の大学との図書館相互利用も始まりました。青山学院女子短期大学、聖心女子大学などの図書館を、その大学の学生と同じ条件で利用できるものです。図書館利用を通じて、他大学の空気を吸うのも良いものです。

## 2. 日野キャンパスの整備も順調

日野キャンパスでは、平成27年3月4日に新第3館の起工式を挙行いたしました。旧第2館と第3館を取り壊し、その跡地に建設するものです。地上4階建て、2500㎡の建物で、7つの中教室と6つの研究室が入ります。この建物は、新学部構想の受け皿となるものです。実践女子大学に新たな4学部目を開設しようと構想が出てきております。学生数が減った日野キャンパスに少して

も賑やかさを取り戻す効果もあります。現在、新学部設置構想準備委員会を設け、鋭意検討中です。

短期大学が立地していた神明キャンパスは、校舎の除却が済み、グラウンドに芝生を造成中です。近い将来、体育施設として整備し、体育の授業や課外活動に有効利用される運びです。

また、神明キャンパスの敷地の一部を日野市に無償提供することになりました。これは、日野市に不足している保育施設を設置するために敷地を提供するものです。整備された暁には、生活科学部の幼保専攻の実習場所としての活用が期待されております。

日野キャンパスの整備の一環として、キャンパスの片隅にあった文連ハウス、卓球場、合宿所の取り壊しが順上に乗っています。これらの建物は、卒業生のみならずの思い出深いことと思いますが、既に築40年以上を経過する建物もあり、老朽化が進んでいることから、現在機関決定に向け手続きを進めることを検討しています。上記の建物はサークル活動の拠点であったので、一部の機能を本館等に移すなど、支障がないようにしていきます。

## 3. 短期大学部のグローバル化

従来から、外国語教育に精力的に取り組んでいる短期大学部では、相次いで海外大学との協定を結んでいます。派遣留学(5ヶ月)では、オーストラリアのストッツカレッジに加え、平成27年度より、アメリカ(ハワイ)のカピオニラ・コミュニティーカレッジならびにオーストラリアのサンシャインコースト大学への派遣留学が始まりました。

## 4. 授業方法の改善

私が学長に就任してから、授業方法の改善に努めております。アクティブラーニングの導入、適切な授業の履修を助けるカリキュラムマップやナンバリングの導入、予習・復習を含めた学修時間の拡大等を全教員の協力を得ながら、推進しております。これにより、学生が主体的に勉学に勤しみ実力をつけることで、結果として、より社会から必要とされる人材を世に送り出すことを目指しています。

以上、簡単に2キャンパス展開後の動きをご紹介しましたが、詳細は学園ホームページをご覧ください。(たじま まこと)

## 同窓生の絆



一般社団法人  
教育文化振興実践桜会 理事長

浦上 淳子

何事もスタート前は、不安や心配なことが多いものですが、お蔭様で第1回目の代議員総会が皆様のご理解とご協力のもと、無事に閉会できましたこと感謝申し上げます。

現在、創立100年を超える学校は全国でかなりの数にのぼりますが、消えてしまった学校もまた数多くあることはいうまでもありません。存続するためにはいずれも伝統という立場で安穏として甘えているわけでもなく、不断の努力を続けているからこそ今があります。

目の回るように早い社会の動きに、114年目の実践桜会も常に変革を促されてまいりました。時代の先駆者であった下田歌子先生を学祖に掲げる私共も、しっかりした視野をもって将来に備えていかなければいけないと存じます。

かつては、同窓会やクラス会が女性にとって数少ない社交場であり、娯楽の場でありました。しかし今はどうでしょう？ 有名レストランの優雅なランチは少なくとも8割方は女性が占めており、夜も男性に交じってジョッキやグラスを傾けていたり女子会で盛り上がっている女性達で溢れています。価値観も意識も変わってまいりました。

「同窓会」も変わって然りです。しかし、先輩方が繋いできた伝統ある実践桜会はいかがでしょうか。改めて見直した時、少しでも発展させるためには「同窓生の絆」に勝るものはないと確信し、来る11月14日・15日の岩村への全国交流ツアーはそのような想いを込めて決定いたしました。

6月、下田先生の法要と墓参の折、JTB中部支店長、恵那グランドホテルのご好意により、下見として岩村や恵那を常任理事達と巡ってまいりました。恵那市長をはじめ、岩村観光協会、女城主の岩村醸造、カステラの松浦軒の皆様方も実践女子学園とは関係深く、私共の来訪を、心から歓迎し、お待ちしておりますとのお言葉を

いただきました。帰途、足をのばして三国山に登りました。下田先生が17歳で江戸を目指し覚悟の程を「綾錦 着て帰らずば三国山 またふたびは越えじとぞ思ふ」と歌われた場所です。頂上にはその歌碑もあり、見晴台からは四方（名古屋方面、伊勢湾、木曾御岳等）が曇ながらうすら眺められました。草の生い茂った山道をどのような想いで越えられたのでしょうか。平成の恵まれた時代を過ごしている私達は、多くの先人達のお蔭故かと心から感謝の想いで一杯になり、歴史を感じてまいりました。ツアーのご報告はいずれといたしまして、実践桜会の活動は続きます。

10月8日は下田先生のご命日です。護国寺墓参のあと、会館にて先生のお写真をお祀りしてお供え香をしていただいています。どうぞお出かけくださいませ。

10月24日・25日は恒例のバザーがあります。皆様のご協力なくしては成り立ちません。以前はご家庭で眠っているお品の数々のご寄附が沢山ございましたが、最近では眠っているお品が少なくなり多くを望めない現状がございます。少しずつでも大勢の方がご協力くだされば沢山になります。

1人の力は小さくても大勢集まれば、大きくなります。「同窓生の絆」を是非繋ぎ合ってまいりたいと存じます。  
(うらがみ じゅんこ)



## 一般社団法人教育文化振興実践桜会 平成27年度 定時総会



### 平成27年度実践桜会定時総会報告

平成27年5月17日（日）、代議員制を導入した第1回目の定時総会がセルリアンタワー東急ホテルにて開催されました。代議員数182名、出席者109名、委任状61通で定足数を満たし、定款第22条により、総会は成立し、議題が審議承認されました。

- 【議題】
1. 平成26年度事業報告の件
  2. 平成26年度決算書承認の件
  3. 公益目的支出計画実施報告書承認の件

4. 監査報告
5. 平成27年度事業計画（案）及び予算（案）の件
6. 定款変更の件

総会後の懇親会では卒業生の曾根裕子様によるシンホニック・キーボードの繊細でかつダイナミックな演奏の数々に圧倒され、しばし酔いしれました。



### 系列科会長、支部長、実践桜会役員懇談会

総会、懇親会の後、4科会長と国内外29支部の支部長及び代理の方々のご出席を頂き、お顔合わせの懇談会が開催されました。桜会の各部の常任理事による

事業説明がなされ、ご出席者との活発な質疑応答が交わされました。



# 歌子先生 英国巡り会い 4

## —ヴィクトリア女王 謁見—

実践女子大学 文学部英文学科 教授  
図書館長

大関 啓子



下田歌子先生が欧米視察で出会い、影響を受けた人物を、英国を中心に御紹介してきましたが、今回はヴィクトリア女王です。

1895年5月8日、歌子先生は、ヴィクトリア女王に謁見します。翌日(5/9)付の『タイムズ』や『ロンドン・スタンダード』等英国の各紙には、バッキンガム宮殿に於いて、“Madame Uta Shimoda”がヴィクトリア女王に謁見したことが報じられています。その二年前に渡欧して以来、女王謁見は、先生の念願でした。明治天皇の内親王教育の視察として官費も支給され、日本を出発した先生にとって、それは滞欧の大きな目的の一つだったのです。歌子先生の止宿先のゴードン夫人は、かつて女王に女官として仕えた経験があり、その実現に大いに尽力しました。それ以前の機会を様々な妨げにより逸していたこともあり、帰国を6月に控えていよいよこの日を迎えたのです。

ヴィクトリア女王はこの時76才、18歳で即位し、数々の困難を乗り越えて在位58年、二年後にはダイヤモンド・ジュビリー(在位60周年記念式典)を控え、その治世は頂点に達していました。「女王の時、英国

は栄える」の通り、この時代、その領土を飛躍的に拡大し、産業革命からの上昇気流はピークに達し、経済規模も大きく拡大して、まさに大英帝国として最盛期を迎えていました。

夢の如く消え去りました過去の記憶を辿って見ますと、私が英国のウィクトリア女王に拝謁致した頃は、恰も英国の盛時で、国旗の輝く所、太陽の光の没するを知らずと、英人が語って居た程、世界にその国威を宣揚して、至る処の殖民地より持ち参たす各種の産物が、益々英本国を肥太ならしむる状を見て、各国は、羨望やら嫉妬やらの眼を見張って居る時代でありました<sup>1)</sup>。

この謁見の日時は急に決まったようで、歌子先生が1-2ヵ月間欧州大陸を視察して回り、ドイツに到着した時に知らせが届きました。しかも「女皇ハ、是非日本の礼装が見たいから日本服で参ってくれ」との連絡を受けたのです。「菴蓑れのした真黒な御顔」と正装のドレスを新調する費用も考え、先生は「垂髪袴」でと決心します<sup>2)</sup>。

日本服装の美は、今日程、欧米人の賞讃措く能

はざる所の物で、優美高雅と云ふ点から申さば、世界第一でありませう…<sup>3)</sup>。

かつて宮中に仕え、垂髪袴の礼に慣れ親しんでいた歌子先生の心には、和装とその礼についての自信と誇りがありました。そしていよいよ、その当日、多くの人々が女王に謁見するために宮殿前に馬車を連ねます。その様子を「常よりもことに聞こゆるもの」として、先生は次のように記しています。

英國女皇が謁見日の馬車の音。セントゼームス公園の木の下蔭より、花やかに粧ひたてたる車、大凡二三百輛ばかり、時成りぬと引き連らねて、バッキンガム宮殿まではるばると軋らし入る程よ。なほきらきらききものの中にもとぞ…<sup>4)</sup>。

この行列を一目見ようと群衆が道路の左右に黒山のように集まり、その中の洋服屋・帽子屋・宝石商・化粧品屋などが、最新の流行を先取りするために手帳に記録している姿に、先生も驚いています。宮殿の中に入ると、「広き謁の間」で待ち、姓名を呼ばれて女王の謁見の間に入り、女王の出される御手に片膝ついて一寸接吻の礼をして退きます。

女皇は、英国の女性としては、何方かと申すと、先小柄な方の御がたあらせられまして御顔はふっくりと御肉づきよく、御手も同様に見上げられ、御口もとにて、少しく微笑を漂せられまして、如何にも温容溢る様でしたが、凝と、他を見据えられる御目は、眼光炯々として、理智の閃めきが見え、実にも流石に、大英帝国の元首に在すると思はれる所の、威厳を備へてあらせらるゝと感じました<sup>5)</sup>。

こうして歌子先生の女王謁見は、無事、しかも大成功を収めました。日本女性の正装が、翌日の新聞

に取り上げられ評判となり、後日女王陛下よりウィンザー城へ非公式に招かれた、というのです。その折も和服の正装で拝謁し、「女皇ハ私の衣服に御手を觸れられて御覧になり、いろいろ御質問のあつた後で」平安朝の衣装とその時代の女流文学、そ

して日本の皇后の女子教育への熱意にまで、話が及んだことが記されています<sup>6)</sup>。その際、歌子先生は流暢な英語で女王陛下の御下問に答えたと伝えられます。

ヴィクトリア女王が、多くの謁見者の中から、歌子先生を改めてウィンザーの居城に招かれたのは、なぜでしょう。それは、単に和装の珍しさだけではなかったはずで、大英帝国の君主として、ヨーロッパはおろか、世界の政治外交の檣舞台において、他に並ぶ者のない強者として在位し、一度として心の休まる暇もなかったそれまでの58年間、しかも引退は許されず、高齢にもかかわらず働き続けてきた女王。常に大英帝国を主導してきた女性としての苦勞が、遠く東洋の日本の宮廷から遣わされた、歌子先生のしなやかで強い意気込みに、共鳴するものを感じさせたのではないのでしょうか。

1893年9月に横浜を発ち1895年8月帰朝するまでの2年間の欧米視察について、歌子先生が遺した多くの著書や記述の中で、ヴィクトリア女王謁見については、繰り返し様々な形で発表されています。それは先生の心にも、忘れる事の出来ない女王の強い印象をのこし、さらに皇女教育を当初の目的とした歌子先生の視察にとって、まさにハイライトとなり、欧米を未だよく知らなかった当時の日本人にとっては、最高の効果を与えるものとなったのです。

ここで引用した「英国ウィクトリア女皇謁見の印象」をはじめ、歌子先生に関する『下田歌子関係資料』の多くは、大学図書館のホームページからもご覧になれます。また卒業生の皆様は、渋谷・日野、両キャンパスの大学図書館をご利用頂けますので、母校の見学を兼ねて是非お出かけ下さい。

1) 2) 3) 5) 6) 下田歌子「英国ウィクトリア女皇謁見の印象」(1933、大塚宏昌翻刻)  
4) 下田歌子「外の濱づつ」(1895)『香雪叢書』第一巻(1932) p.222



## 『ルース』を翻訳して

角田 米子

(昭和44年/大英卒)



中学、高校、大学英文科と実践で学び、卒業して20年ほど経った頃に山脇百合子先生よりヴィクトリア朝時代の女流作家エリザベス・ギヤスケルの日本での研究会設立を機にお誘いがあり、学生時代の友人3人と日本ギヤスケル協会に入会しました。

友人たちは専業主婦、私は家業の手伝い、と卒業後はアカデミックな生活とはほとんど縁がありませんでしたが、入会后、先生より長編『ルース』(Ruth)を訳す話をいただき、4人でやってみることにしました。20年ぶりに英語、日本語の辞書を片手に鏝ついた頭を何とか動かしながら各々が孤軍奮闘の連続でした。訳した文章が馴染めない日本語の羅列になってしまうことが多く、英語はもろんのこと、日本語も覚束ないことを自覚させられました。

### 作品が書かれた時代背景も学ぶ

週1回、旧桜同窓会館に集まり、朝10時頃から夕方4時頃まで、ワイワイ、ガヤガヤ、おしゃべりの延長のような雰囲気は学生時代にタイムスリップしたようでした。時にはかなり真剣に解釈の仕方や表現方法などを話し合い、また作品の内容、作家の意図や社会的環境などを論じ合いました。

意見が分かれた時には幸いにして当時日本の大学で教鞭をとっていた英国人の先生に教えていただく機会を得ることができました。学生時代にもっとしっかり学んでおけば良かったと後悔しつつも、有意義で貴重な時間でした。行き詰まった時は気分転換も兼ねて山脇先生のお宅にお邪魔し、作品の解説はもとより広く英文学のお話をお伺いできたことは幸せ

なことでした。当時のこのような経験は本当に充実した実りある時間を過ごした楽しい思い出として今でも深く心に残っています。

文学作品を読むに際して、その時代の社会的背景、歴史、文化などを知る必要性を感じ、関連した本を母校の図書館で借りたり、インターネットで調べたりしました。中には英語で書かれた本もあり、読むのも四苦八苦しましたが、作品を読み解く指針となり、描かれている情景などが理解できた時はほっとして嬉しくなりました。

在学中、山脇先生の英国女流作家論の講義時には「こんな女性作家がいて、あの作品を書いたのだ」と漠然と掴んでいたと記憶していますが、社会経験を経て改めてじっくり読んでみると、作品を深く理解できるようになったと思います。ただ作者の意向が正しく日本語で伝えられたかという点では最後まで苦しみ、直訳を読みやすい日本語にするために何回書き直しをしたのか分からないほど推敲を重ねました。そんな時は自分の日本語の不足に泣く思いでした。

### 原書を読むことがライフワークに

山脇先生から出版の提案をいただいたので、ここまで頑張ってきた努力を形にしたいと本にすることにしましたが、読み始めてから『ルース』(近代文芸社)を出版するま



ルースの翻訳仲間



でおおよそ20年の道のりでした。4人がそれぞれに様々な出来事があり、途中で中断することもありましたが、諦めずに続けてこられたのは、先生の優しい指導と心温まる励ましのおかげです。また後年、先生の卒寿の記念に出版された論集『エリザベス・ギヤスケル——孤独と共感』(開文社出版)に『ルース』についてのエッセイを載せていただけたのは教養を受けた者として感慨深いものがあります。複数の人と歩調を合わせて一つのことを成し遂げるのは難しいと言われがちですが、私たちは実践カラーに染まった気心の知れた仲間です。これほどまでに長く続けられたのだと確信しています。

原書を読むことをライフワークにしようと思い、志を同じくする友人とともに『ルース』に続き、短編「一時代前の物語」(Half A Life-Time Ago)を読み終えました。この作品に関しては、今年11月に出版予定の『没後150年記念 エリザベス・ギヤスケル中・短編小説研究』(大阪教育図書)にエッセイを載せていただけています。今はギヤスケルと同時代のジョージ・エリオットにも関心を広げ、短編「ジェイコブ兄弟」(Brother Jacob)、「とぼりの彼方」(The Lifted Veil)と読み進め、ギヤスケルとはまた違った文体に戸惑いつつ、作者が作品に込めた意図を読み取ろうと努力しています。

(つのだ よねこ)

### [プロフィール]

目黒で130年余り続く日本蕎麦屋に生まれる。幼少期より英語に親しみ、実践女子大学英文科へ進む。卒業後は家業の手伝いと学習塾で教えるかたわら、ビジネス英語の翻訳を学ぶ。今日では『ルース』をはじめとする翻訳を仲間とともに手掛ける。

山脇百合子教授を囲んで。左から脇山さん、阿部さん、山脇先生、筆者、宮園さん

## イタリア家庭料理を追いかけて

山内 千夏

(平成3年/大食卒)



「イタリア料理に魅かれた理由はなんですか?」

いろいろな機会によく聞かれます。私の答えはいつも「…わかりません」。

在学中は、食物学科にて栄養学を中心に学んでいたため、もともと「食」に関して興味がある学生だったと思います。イタリア料理と出会って興味魅かれたのは、卒業してから少し時間が経った頃でした。大学卒業はちょうどバブル期終盤。東京には世界各国の様々な料理を供するレストランが現れ、さながら海外旅行気分が各国の食文化にちょっぴり触れることができた時代でした。ティラミスが大ブームを巻き起こしたのもこの頃。多くの方と同じように私もイタリア料理が大好きになりました。

但、東京で食べるそれは、旅で訪れたイタリアで食べる料理とはちょっと違い、よそ行きにドレスアップした美しい料理です。もっと家庭的な土着の料理を見たい、という思いが大きくなり、イタリアの料理学校で郷土料理を学ぶ研修に飛び込みました。まだネットはもちろん、携帯電話も普及していなく、情報も豊富とは言えない時代のことです。現地での食事や、見るもの、聞くこと、すべてが新しく面白くそして深く。もっと見てみたい、知りたいと、イタリア料理の世界にはまったのではないかと思います。

### 地域によって食材も調理法も多彩

ではイタリア料理とはどんな料理であるのか、簡単に説明せよ。これまたとても難しい質問です。ご存知ブーツ型といわれるイタリアは南北に細長く、凸凹の激しい地形です。また、周囲はぐるりと海に囲ま

れ、気候風土は変化に富んでいます。150年ほど前までは小国家群に分裂し、それぞれが独自の伝統と文化を築いてきた歴史的背景もあります。地方によっては近隣諸国によって統治されていた時代もあり、イタリアは文化的に強い地方性を残したまま発展してきました。この理由から、イタリア料理は地方料理の集大成といわれ、それ故に「世に『イタリア料理』という料理はない」、というように言われるようになったのでしょう。

伝統料理にはミラノ風、ヴェネツィア風、などの地域名のついた料理が多く、その地方の特色をもった食材はもちろん、調理法の違いなどを活かした料理が数多くみられます。また敬虔なキリスト教国であるということも、食文化、主に行事食に大きな影響を与えているのも興味深いです。つくづく「食」は文化であり、人々の生きてきた証であると感じるばかりです。イタリア料理を学ぶようになってから、学生時代にもっと頑張っておけばよかったと、後悔する事もしばしばです。

### 愛すべき時間たち、料理たち

料理学校での短期研修に参加した後、毎年のようにイタリア各地を訪ね、その地の郷土料理を学ぶのが習慣となりました。キッチンでお母さんが作る家庭的な伝統料理を教えることが主な目的ですが、料理自体のレシピだけでなく、なぜその食材を使うのか、どういうときに食べる料理なのかといったことを直接尋ねることを一番大切に思っています。またできるだけその地独特の食材に触れてみたくて、畑など産地を直接訪ねるようにもしています。

とはいえ、毎回思い通りに物事が運ばないイタリアでのこと、スケジュールやアポイントの変更なんてザラ。そんな事にもすっかり慣れ、多少のことでは慌てなくなり、時折友人と一緒に渡伊すると驚かれることもあります。何事も分刻みの時間通り、街中の至るところに24時間コンビニが立ち並び便利な生活を送る都会の日本人からすると、イライラしてしまいそうな感じも…。

ですが、日々の時間を愛おしみ、ゆったりと家族中心の生活を送るライフスタイルを見ていると、本当の豊かさとは何だろうか、と考えさせられることもしばしばです。日々を追われてしまうとき、ふっと思い出すイタリアでの愛すべき時間たち、料理たち。その風景をたくさん見たくて、感じたくて、イタリアの家庭料理を追いかける。そんな日々が続きそうです。私がイタリア料理に魅かれる理由…お答えするには、まだまだ時間がかりそうです。(やまのうち ちなつ)

### [プロフィール]

料理家。製菓メーカーで商品企画に携わった後、イタリアへ料理留学。帰国後、イタリア家庭料理の魅力伝える料理教室を開催。雑誌、TV等でもレシピを紹介している。



著書  
「トルタ・サラータ」  
(文化出版局)



\* 2016年2月20日第2回キャリアネットセミナーにて講演会を予定しております。

## 音楽のたのしさを追及して

シンフォニック・キーボード奏者 曾根 裕子  
(昭和43年/短生活卒)



幼いころから、歌や音楽が大好きだった私は、小学校の2年生よりピアノを習いはじめました。

18歳のときに、両手両足を駆使して表現する電子オルガンと出会い、独りでオーケストラのような演奏ができる素晴らしさに夢中になってしまいました。

その後、世界的なオルガニストである斉藤英美先生に師事して、演奏と編曲法を学びはじめました。そして、これが私の人生を大きく変えることになるとは夢にも思ってみませんでした。

### さまざまな出会い、母校での演奏

斉藤先生の勧めでリサイタル、ジョイントコンサートなどのステージや式典、フォーラム、シンポジウム、コンベンションほか種々の催しに演奏者として出演するようになりました。さらに「NHK すこやか健康教室」のレギュラープレイヤーとして、北海道から沖縄まで、全国各地を番組終了ま

での27年間にわたって続けました。いろいろな方との出会いは、私にとって想い出深い経験となりました。

わが国のギタリストとして最高峰にある荘村清志さんとの共演も30年にも及び、各種のチャリティコンサート等で共演させていただいております。

幼少のころから大好きだった歌舞伎の世界の方々との、国立劇場における幾度かの共演は夢のような経験となりました。

また、母校での各種の演奏会にもたびたび出演させていただきました。帝国ホテルでの学園創立100周年、昨年の桃天館・桜講堂での創立120周年などなど、多くの記念コンサートに出演させていただいたことも、すばらしい思い出となっております。

### 「音我苦」を「音楽」に

一昨年には、プロデューサーや多くの方たちのご協力を得て、念願のCDアルバム「ロマンティック・アラ

ベスク」(ソロ15曲)も発売することができました。

昨年は、母校のチャイム、校歌に加え、生徒たちが体育祭で踊る、実践伝統のメイポールダンスの曲「花をたたえて」の入場から退場までを編曲し、校内行事用CDも作成いたしました。

音楽を通じて、多くの方々とのすばらしい出会いに恵まれました。今まで関わってくださった実践女子学園の先生方、同窓の皆さまの応援をいただいたことに、心からの感謝の気持ちでいっぱいでございます。

これからも「音我苦」が文字どおり「音楽」になれるよう、日々の努力を重ねて行きたいと思っております。

(そね ゆうこ)

[プロフィール]  
クラシックからジャズ、民謡、雅楽まで多彩なジャンルを手掛ける。数多くの楽器の音色を再現するシンフォニック・キーボードの演奏テクニックで新境地を拓き、この分野でも第一人者としての名声を博している。



恩師・斉藤英美先生とのジョイントコンサート

ギタリスト・荘村清志氏との共演

## 自分がおいしいと思う農作物を作る

御子柴いちご園 御子柴 怜美  
(平成19年/高校卒)



### 農業を学びたい

普通のサラリーマンの家に生まれた私が、農業の道に進みたいと思ったのは高校1年生の頃でした。農業は家族で仕事ができとても楽しそうに思えました。また、元々食べることが好きだったので、新鮮な食べ物を自分の手で作れる事にも魅力を感じました。

そこで全国の学校を調べ、農業を基礎から学べ、私のような非農家出身者も多い長野県の八ヶ岳中央農業実践大学校に進学しました(実践女子学園史上初の農業大学校進学だったと思います)。

学校では野菜栽培や家畜の世話など様々な事を勉強しました。初めは朝4時に起床して一日中体を動かすことに慣れず、筋肉痛の毎日で、こんな調子で農業を仕事にできるのか、不安を感じました。しかし、この学校は全寮制だったので、先輩の逞しい姿や同級生の努力する姿を目の当たりにして、負けてはいられない

いと自分を奮い立たせる事ができ、無事2年後、皆勤で卒業する事ができました。

### 仕事としての農業

卒業後は長野県にある永井農場(農業の会社)に就職しました。学校での生活で体力はついたと思っていましたが、実際の現場ではまだまだ足りず、夕方には足がパンパンに張ったり、牛に足を踏まれたり、車を畦に落としそうになったり、という毎日でした。

そんな中、現場で最も困った事は、作業内容の伝達でした。一般に農家は家族で作業をするので、他の人に教えながら仕事することに慣れていません。上司が指示を出しても内容が上手くスタッフに伝わらない事が多々ありました(とくに口数の少ない男性同士)。そこで私は「なぜこの作業をやるのか」「優先順位は？」などをしつこく上司に質問し、他のスタッフにそれを伝えました。体力では男性に劣りますが、こういったコミュニケーションの場では女性ならではの気遣いが大切なのだと痛感しました。

### いちご農家の生活がスタート

約5年間の永井農場での勤務の後、農業大学校で知り合った彼がいよいよ自分の畑を始めるというので、結婚退職しました。彼は学校でいちごに興味を持ち、栽培する作物も冬いちごに決めました。初年度は大きなビニールハウスを建設のため、多額の投資をしました。これで栽培に失敗したらどうしようとドキドキしましたが、幸い重大な病気も出ず、また地域の方々の手助けもあり、ま

ずの売上でした。

農業には、農薬や肥料を使うか使わないかといった、真逆の考え方があります。そしてそのどちらにも良い面と悪い面があります。だからこそ、農家を志す者は、自分らしい農法を日々模索していきます。そしてそこが農業の自由さ・楽しさであり、また同時に難しさでもあります。

私は今後も夫と力を合わせ、「自分がおいしいと思う、わざわざ買に行きたくならないいちご」を栽培するために、日々仕事に取り組んでいきたいと思っています。

(みこしば さとみ)

### [プロフィール]

高校卒業後、農業大学校進学。株式会社永井農場での勤務を経て、長野県塩尻市広丘にていちご栽培を夫婦で始める



# 戸野原須賀子様 100歳のお祝いに

—あの頃のこと—

若松 幸子

[プロフィール]

昭和34年実践女子大学国文学科卒業。同4月、毎日放送にアナウンサーとして入社。37年3月フリーアナウンサーとなる。昭和56年から2期4年校同窓会理事。平成14年から19年まで3期6年14代実践校会理事を務める。

戸野原須賀様に初めてお会いしたのは、昭和55年社団法人桜同窓会総会の日でした。

第8代同窓会理事長戸野原様はおおらかで、ゆったりとした包容力の優しい方とお見受けしました。

当時の理事会は顧問3人に、理事長を含め23人の役員で構成されていました。理事のうち8人は中・高・大学の教職にある方でした。専門卒10人、大学・短大卒11人、高女卒2人での役員構成の出身母体のバランスも配慮されていました。私は同窓会が何か分からず教授の推薦で末席に座りました。短大はすでに日野に移転し、大学は6年後に日野移転を予定していました。

その頃の女子進学率は高くなり、大学・短期大学を合わせて33%を越え、昭和55年にはデンマーク大使に初の女性大使高橋展子さんが就任、国連婦人会議開催など国内に限らず女性の社会活躍が目立つようになりました。

## 交流会の運営や 会報誌「那与竹」の発行

学園創立80周年を過ぎて同窓会も変革の時を迎えたのではないかと思います。昭和39年に建設された前桜同窓会館が私達の活躍拠点でした。鉄筋コンクリート4階建て3、4階は宿泊のできる和室に浴室も備え、管理人常駐の建物でした。支部から上京なさる方にご利用いただける建物でした。総会時には支部長さんがご利用になっていらっしゃいました。

年間活動の中は、総会、会報誌発行、会員交流会、母校学生支援など現在と変わらない業務でした。ま

ず総会参加者増を考え、皆様楽しんでいただけるような催事、余興などの工夫をしました。5代目三遊亭円楽師匠の1時間にも及ぶ落語熱演、人の背丈より高い大太鼓による郷土芸能の演奏。飾りの野菜まで消えた立食パーティー、400人余の参加でした。バザー、バス旅行等々、苦しい企画も楽しい結果を生みました。会報誌「那与竹」は同窓会、学校、学園の情報を年に1度のお知らせなので毎年発行。山のような封筒に糊付け封入は楽しい思い出です。

## 下田先生を敬い、 母校を愛する戸野原先生

さらに、2期目には細則改正、運営規定を制定がされました。

戸野原理事長をはじめ先輩役員の皆様のご理解や後押しをいただき多少でもお役に立ったことは嬉しいことでした。

平成15年「学祖生誕150年祝賀会」で戸野原先生は長年にわたる学園支援で顕彰され学園から感謝状を授与され、お礼のご挨拶で、あたかも学祖下田先生が会場においでか

に感謝の言葉を繰り返されました。

また、平成16年、学園からの特別功労賞授与の際は、「私の身体はどこを切っても実践の血が流れています」と話されました。ご両親共に教育者のご家庭で育ち、お父様のお勧めで実践女子高等女学校、専門学校に進学されたと伺いました。宿題が沢山で余暇を楽しむ時間はなかったとおっしゃる学生時代。いまま正義感が強く好奇心旺盛なのは以前と変わらずと思います。

厳しく優しく指導なさっていらした百歳の先生「自立のための生活能力、技術を身につけ人の倍の努力をなさい」下田歌子先生を尊敬し、母校を限りなく愛する百歳の戸野原先生。来年の8月3日もまたお祝いをさせていただきます。（わかまつ さちこ）

[戸野原須賀子様プロフィール]

昭和11年実践女子専門学校技芸科卒業後、技芸科助手を経て、川崎市立向丘青年学校教諭、母校技芸科助教授をつとめる。戦後は、民生委員、横浜家庭裁判所家事調停委員、保護司、人権委員などを歴任。昭和55～58年実践校同窓会理事長、平成2年まで評議員。昭和62年、勲5等瑞宝章授与。平成13年実践校会100周年記念表彰。16年実践女子学園より特別功労賞授与。17年戸野原須賀子奨学金規定を実践女子学園にて施行。



戸野原須賀子様を囲んで。前列左が筆者

## 座談会

# 未来へ「つながり」「羽ばたく」実践へ 若い世代の卒業生が語り合いました

## 出席者(敬称略)

大貫 詩織 平成24年/高校卒(学習院大学文学部英語英米文化学科)

青柳 美穂 平成24年/高校卒(実践女子大学文学部国文学科)

大塚 麻友 平成27年/高校卒(早稲田大学国際教養学部)

田尾 瞳 平成27年/高校卒(清泉女子大学文学部日本語日本文学科)

吉田 和紗 平成27年/高校卒(青山学院大学教育人間科学科)

## 「礼儀正しさ」は実践の伝統

**大貫** はじめに、私たち卒業生にとって母校はどういう存在なのでしょう。実践の中高教育の良さ、たとえば独自の取り組みや学生の気質など、実践で学んで良かったと感じている点について、エピソードを含めてお話し合いたしたいと思います。では、青柳さんから、お願いします。

**青柳** 私と大貫さんは、現在大学4年で就活の真最中です。そこでよく感じるのは、自分では当たり前と思っていた礼儀や挨拶など、細かなマナーができていない、ごちない学生を多数見かけることです。礼儀作法は、普段の生活の積み重ねの中で身につくもので、付け焼き刃では見抜かれてしまいます。中高時代から先生方に厳しく指導していただいたことが、いま大変役に立っていると気づきました。有難いことだと感謝しています。

**大貫** 実践はルールや挨拶を厳しく指導して下さる学校です。私が会長をしていた生徒会でも「挨拶運動」に取り組みました。これは、朝の登校時、上級生が交代で下駄箱のそばに立ち、「おはようございます」と声掛けする運動です。この運動を通して、一人ひとりが挨拶されると一日が気持ちよくスタートできる、逆に挨拶を無視されると心が傷つくことを実感し、挨拶を交わす意識が浸透したと思います。そして今、改めて就活の場で、コミュニケーションの鍵となる挨拶

の大切さを痛感しています。では、次に大塚さんから、中高独自の取り組みであるGSCのことをお話し下さい。

**大塚** GSC(グローバル・スタディ・クラス)とは国際学級のことで、英語教育に力を入れ、中国語も学びます。英語・国語はレベル別に分かれたスプリット授業でした。中1～高3の6年間を一緒に過ごすので、クラスのみんなが親友のように仲良くなります。一人ひとりが、とても積極的で個性的な仲間たちでした。

高1になると、オーストラリアに3カ月留学します。ホームステイ先は別々なので不安もありましたが、その中でみんなが視野を広げ、自立心も養われました。一番の収穫は、グローバルな視野が身についたことです。また、帰国後、みんなの英語力が急激に上がったことにも驚きました。生徒会や部活ではGSC以外のクラスの人と一緒に活動し、運動会や合唱コンクールなどの行事も共通なので、6年間でたくさんの友人をつくることができました。

**大貫** 大塚さんは、模擬国連のグローバル研究会にも参加されていますね。具体的に、どのような活動をされていたのですか。

**大塚** 模擬国連は、全国の高校生を対象に国連会議のシミュレーションを行う教育プログラムです。実践は2007年から参加し、毎年ニューヨークの国際大会出場者に選ばれています。その実力を継承していく目的でグローバル研究会が発足しました。GSCに限

らず高校全体から希望者を集め、2名ずつグループを組んで練習を重ね、代表を2組選抜するといった活動をしています。

**大貫** GSCも模擬国連も、私たちの卒業後にできたものです。新しいことが次々に行われているのですね。では、他の方の意見も聞いてみましょう。吉田さん、いかがですか。

**吉田** 先ほど先輩から「礼儀」のお話がありましたが、私も実践生は「礼」の仕方が綺麗だという印象が強く残っています。今年、大学の入学式でいろいろな高校から来ている新入生の「礼」（お辞儀）の姿を目にして、1・2・3で頭を下げ、4で止まり、5・6・7で顔を上げる、中1から式典の度に何度も練習させられた、あのゆっくりとした実践風の「礼」を、いいなと感じました。

**田尾** 私も、真面目さや礼儀正しさが実践の良さだなと思います。同時に、実践生は人柄が良く、心配りのある人が多いですね。6年間、同じ環境で育ってきて、みんな一緒に大人になっていきます。大学生になってからも、自分の悩みなどを真剣に聴いてくれる友達ができしたのは、こういった環境で6年間良い先生方に囲まれて大きくなったことが大きいなど、卒業してから改めて実感しました。

**大貫** そうですね。みんな一生の友達になります。

### 将来にそれぞれの夢を描いて

**大貫** 次にいまの大学・学部を選んだ理由と、将来の目標や夢についてお聞かせください。吉田さんからお願いします。

**吉田** 私の目標は、幼稚園か小学校の先生になること。青山学院大学の教育人間科学科では、幼稚園から高等学校までの教員免許を取得することができます。もし、途中で中高の先生になりたいと志望を変えても、2年までなら免許を取得することが可能です。そんな点に惹かれ、選びました。

**大貫** 実際、どのような授業を受けていますか。

**吉田** 教育に関わった偉人のことや、最近では幼稚園や保育園のほか、認定こども園についても学んでいます。

**大塚** 私が早稲田大学の国際教養学部に進学したのは、高校時代GSCに在籍していたことが大きかったと思います。社会問題に対する意識やグローバルな視点をさらに深めていきたい、それも一つの分野に特化するのではなく、様々なジャンルに触れてみたいと。

また、留学が必須なので、もう一度海外でグローバルな力を身につけたいと思いました。時期は2年の夏から3年の春迄で、アメリカかカナダに行きたいと考えています。

**田尾** 私は清泉女子大に通っていますが、中学か高校の国語の教員をめざしているので、日本文学を選びました。できれば、実践の教員になれたらいいなと思っています。

**大貫** 数年後には教育実習で実践に来るのですね。ぜひ、頑張ってください。では、次に青柳さん。

**青柳** 実践女子大を選んだ最大の理由は、単純に学園が好きだったから。少しでも長く実践にいたい、という思いからです。その中で国文学科を選択したのは、よく外国人の方に話かけられても、日本のことをうまく伝えられないからでした。もっと日本のことを知りたい・伝えたいと思い、日本語で外国人に日本のことを教える日本語教員の資格を取るため国文学科に入学しました。

でも、4年生になった今、目標が変わりました。昨年、私は学友会の副委員長としてイベントの企画・運営に携わっていました。この体験を通して培われた知識やノウハウを生かし、お客様に楽しみや喜びを与える物流企業やイベント業界に進みたいと考えています。

**大貫** 私は学習院大学文学部英語英米文化学科に在籍しています。元々映画鑑賞が趣味で、高校時代はハリウッド映画に関わる仕事に憧れました。そのためには、まずアメリカの文化を知る必要があると考え、アメリカ文学を学ぶこの学科を選びました。ところが、私も途中で進路志望が変わり、今はホテル業界を目指していて就活中です。日本は、これからオリンピックも控えています。日本の良さを海外のお客様にアピールし、おもてなしする仕事がしたいなあと感じています。

### 自分の可能性を広げる活動に挑戦

**大貫** みんな、それぞれの目標に向かって頑張っていますが、いま特に力を入れて活動していることは何でしょうか。学習・研究、部活、社会活動、趣味、どんな事でも結構です。

**青柳** 実践女子大は渋谷に文学部が移転し、日野と2拠点化しました。その際、私たち3年生が学友会の基盤づくりを担いそれを後輩に引き継ぐ作業に取り組んでいます。2か所に分かれたことで規約の改正・監査基準・予算振り分けなど、すべてがこれまでと大



青山先生を囲んで、前列左から、大塚さん、田尾さん、吉田さん。 後列左青柳さん、右大貫さん

きく変わってきます。後輩を支えながら、しっかり引継ぎ、基礎固めすることが目下の課題です。同時に、学生の様々な意見を集約し、大学側に伝え、折衝することも行っていました。

**田尾** まだ1年生で大きな活動はしていないのですが、私も学生会に入っています。先輩方が自主的に動いている姿を見て、良い経験になりそうだなと力を入れて取り組んでいます。

**大貫** これから実現したい企画などはありますか。

**田尾** 清泉は、他の女子大や日大・東工大などと交流があります。私は渉外担当として大学間の橋渡し役になり、交流の輪を広げ、活発化する仕事をしていきたいと意欲を燃やしています。

**大貫** 私は2つの活動に取り組んでいます。一つは卒業論文です。テーマは“アメリカンヒーロー”。「アベンジャーズ」「バッドマン」などの映画が人気になっていますが、そうしたスーパーヒーローをテーマに卒論をまとめています。英雄的行為が崇拜される土壌、言うなればアメリカ人の気質や文化を掘り下げ、翻って日本人の特性、その良さ・悪さについて追究したいと考えています。

もう一つは部活です。陸上部に所属し、当初は短距離の選手でした。しかし、足を痛めたことで円盤投

げに転向しました。いまは体調も良く、記録も伸びています。この故障を通して、何か困難な事態に遭遇した時、諦めてしまうのではなく、視点を変え、他のポジションに向かうことで、自分の長所が生かせることを学びました。

**吉田** 幼稚園の年長組から小学6年までを指導する塾でアルバイトをしています。塾では、勉強ばかりでなく、人間力を鍛えようと、思考力、忍耐力を養うことにも力を入れています。私は1コマ5～6人を指導していますが、一人ひとりの生徒を見て、良いところは褒め、直した方がよい点は指摘するように心がけています。最初無口だった子供がしだいに心を開き、自分のことを話してくれるようになり、他の子どもとふれ合う姿をみると嬉しくなります。子どもたちの成長を肌で感じることは、やりがいにつながっています。

**大塚** NPO団体に所属し、海外インターンを通してグローバルリーダーを輩出することを目標に活動しています。今は、日本の学生を海外の企業や教育機関に送り出す部署で、今秋から始めるプロモーションの商品開発に着手しているところです。

通常は先輩がリーダーとなり、1年生を引っ張って下さるのですが、今年は1年生だけのメンバーで、しかも私がリーダーになりました。途上国の教育格差



を改善していきたいという人、女性の社会的地位を高めていきたい人など、メンバーの問題意識は高く、とても刺激を受けます。その一方で、リーダーとしてみんなを引っ張っていくことにプレッシャーも感じています。

## 下田歌子先生の先見性に改めて驚く

**大貫** 次に、校祖下田歌子先生への思いを話しましょう。生徒手帳にもある「堅実にして質素、しかも品格ある女性の育成」といった教育理念や、教育者としての在り方など、それぞれの「下田歌子」先生について、思いつくまに意見をを出してください。

**青柳** 下田先生の「女性も家庭の中だけでなく、社会の中で活躍していくべきだ」というお考えは、現代社会に通じるものです。昔は就活でも、「女性は気配り、目配り、心配り」を期待されていたのですが、今は主体的に動ける、目標を掲げて動ける女性が求められています。世の中の趨勢は、まさに下田先生の目指した教育そのものになっていると実感しています。

**大貫** 実践の良さの一つは、「素のまま」でいられることではないでしょうか。このことは、先ほどの「堅実にして質素…」につながります。質素とは、ありのまま、飾らないことであり、それが今も継承されています。実践の校風は、校祖の思いが元となり、染みこんでいると感じます。それだけメッセージ性の強い言葉です。

**大塚** 下田先生が女性教育への熱い思いをもって学園を築いてくださった、活動してくださったからこそ、今の私たちがあります。日本の女性教育の基盤を作られた方であり、そのおかげで現代女性が社会進出することが当たり前前の社会が作られたのだと強く思います。容易にはできない生き方をされ、尊敬というか、感謝というか、言葉に表せない気持ちです。

**吉田** 私たちの学年は、中1の総合学習で先生について調べ、学習しました。ですから、遠い存在ではありません。先生の考えは、私たちはもちろん、今の中高生にも息づいています。

**田尾** 吉田さん同様、下田先生が女子教育の基盤を作ってくれたことは理解していました。と同時に、校歌が合唱コンクールの課題曲なり、「ときわの松の下蔭に…」という歌詞の意味をきちんと理解して歌おう、ということで先生の思いを考え続けてきました。歌詞の中に「にほへ、やしまのそとまでも」という一節があります。「日本に留まってないで、どんどん

世界に出て羽ばたけ」という意味で、現代のグローバル社会に通じる考えをあの時代に持たれたということで、改めて先生の凄さを感じました。

## 様々な世代が集い、交流する桜会へ

**大貫** 最後に、私たちにとって同窓会、桜会をより身近なものにするためにどうしたらよいか。先ほどみんなで意見交換し、いくつか意見が出ましたので、参加者を代表して紹介させていただきます。

第一に、同窓会の先輩方は現在の中高生のことを、また中高生や若い世代は同窓会のことを余りよく知りません。まず、中高生と同窓会の卒業生が“つながる”必要があります。

そのため、①『なよたけ』を中高生にも定期的に配布する、②桜会の理事の方が中高に行き、活動の様子をお話いただく、③ときわ祭で同窓会の活動を紹介する展示を行う、といった取り組みが必要であると思います。

同時に、同窓生の皆さんに最近の中高の様子を知っていただく方法として、運動会やときわ祭の折に中高を訪ねていただくなど、双方向に交流を深めていけたら、中高生にとっても若い世代にとっても同窓会がより身近なものとなるのではないのでしょうか。

第二に、世代の離れた同窓生同士の交流の場として、①若い世代を対象に、「就活」のコツについてアドバイスしていただく、②社会人の方に職場のお話をしていただく、③主婦の方が子育てについてレクチャーして下さるなど、「先輩達から生きる知恵を教わる機会」を作ることができたらいいなと思います。

第三に、卒業後の学年の“横のつながり”を絶やさないことも大切です。そのため、①学年ごとの情報交換の場「学年ごとの掲示板」を桜会のホームページに作っていただく、②中高の様子などを伝える、③住所変更の手続きを桜会のホームページにできるようにしていただく、長い一生、実践生の友達の輪が途切れることなく続くのではないかと思います。

桜会では中高の卒業生のために『祝成人の会』を開いてくださり、大変感謝しております。また、私たちは親や教師以外の大人の方と触れ合う機会が少ないため、ぜひ桜会を通して先輩方との交流の輪が広がり、お話をうかがう機会があれば嬉しいことです。校祖下田歌子先生の理念を共通の絆として、同窓生・在学生、世代間交流がさらに深まることを祈念し、座談会を終えたいと思います。

## 札幌支部

岩本郁子  
(昭和37年/大食卒)

### 4名の初参加者

去る6月15日平成27年度総会と懇親会を15名の参加を得て、無事終了することが出来ました。ご高齢により、出席出来なくなる寂しさの代わりに今年初めて出席の方が4人も参加くださり、大変嬉しくお互いに元気の頂けた楽しい会となりました。



毎年札幌で開催されるYOSAKOIソーラン祭りに、今年は6月14・15日出場8回目となる実践女子大学・短期大学部YOSAKOIソーラン部の若さ溢れる演舞の応援に、札幌支部有志の皆さんとでかけました。同窓会との絆を深めるために、続けております。お陰様で元気を頂いております。

昨年社会活動として、「健康づくり講演会」は78名のご参加を得て大変好評をいただきましたので、今年度も予定しております。日時:2015年10月31日(土) 13:30～15:30 場所:藤女子大学755教室 支部会員のご協力を期待しております。

## 函館支部

宮腰泰子  
(昭和34年/大英卒)

### 幅広い世代の集い

平成28年の新幹線開業や新アリーナの完成など、嬉しいニュースの多い函館です。今年支部会は、函館山の麓の教会を改装したレストランで、7月4日に開催いたしました。残念ながら、5名という少人数でしたが、和やかに楽しいひとときとなりました。実践という共通点のもとに、幅広い世代が集まる素晴らしさをあらためて感じました。来年は秋の開催を予定しています。多数のご出席を期待しております。



## 岩手支部

吉清水裕子  
(昭和49年/大関卒)

### 老舗料亭で和やかに

岩手支部では毎年6月に総会・懇親会を開催しております。今年17名の参加で、盛岡市の中心を流れる清流・中津川のほとり、



不来方城御門跡地に50余年続く駒籠さんで開催いたしました。

若女将から大広間に飾られたお軸・お花・屏風等の説明を聞きながら、季節感あふれるおいしい会席料理を堪能いたしました。近況報告やら昔話で会話が弾み楽しいひと時を過ごしました。

その後、総会を開き本部定時総会・その他の報告をいたしました。

来年は一人でも多くの会員の方に参加していただけますようお願いをこめて散会いたしました。

## 宮城県支部

渡辺恭子  
(昭和39年/大関卒)

### 少人数での茶話会

宮城県支部は例年熱心に出席して下さっていた諸先輩方が亡くなられたり高齢のため出席が不可能になっており、若い会員はまだまだ忙しく日々を過ごしています。

そこで、今年は少人数での集まりを考えましたが90歳になられる前支部長の飯岡絹子先生がお元気で参加なされ賑やかに会を盛り上げて下さいました。

仙台は空襲に遭い、度重なる震災などの災害と区画整理で、ほとんどの古い建物が壊されて行き、会場のある町は仙台で最後に残る江戸時代からの街道となり美しくはないが昔の面影がまだ少し残っています。

今年は、6月27日(土)11:00より10名の会員が集まり、仙台市宮城野区に残る江戸時代の小さな古民家で茶話会と仙台昔がたりを聴く会を行いました。



到着した人から茶室での薄茶の接待、NHKで仙台弁の講義を行っている昭和49年大家政卒の渡辺裕子氏の昔話を聞き、地元の新鮮魚でのちらし寿司を頂き、それぞれの近況をお聞きし、ゆったりと会を行いました。

## 秋田支部

境田幸子  
(昭和48年/大被卒)

### 総会を兼ねてミュージカル鑑賞会

例年1回総会は6月を予定しておりますが、本年度は下記のミュージカル鑑賞にあわせまして9月を予定しております。

安藤忠雄設計の「秋田県立美術館」に常設展示している藤田嗣治作の巨大壁画「秋田の行事」に係わる男2人の物語を秋田ミュージカル集団「わらび座」演出の「政吉とフジタ」が9月～12月まで上演されます。今一度「本物の芸術を秋田の子供達に」と願った平野政吉が、藤田嗣治の心を動かした秋田への情熱を味わいながらの懇親の場にしたいと考えております。

## 山形支部

相原陽子  
(昭和38年/大関卒)

### 明治天皇行幸の行在所にて

今年度の山形支部総会は、明治14年に明治天皇行幸の行在所として建てられた歴史的な建物、「亀松閣」にて6月28日(日)に行われました。



山形支部では4地域に分けて、毎年輪番制で総会を実施しています。ここ3年間は本部からの社会活動助成金を使用させていただき、一般の皆さまに参加を呼びかけ交流活動を行っています。今年も当番地区山形市の会員の努力で、市を中心に活躍目覚ましい「さんの会」の皆さんによる向田邦子の『父の詫び状』やその他の朗読を堪能しました。その上、ピアノ奏者とのコラボレーションでしたので、印象深い総会となりました。

また、会員の参加も例年より多く、初めて参加の会員や久方ぶりに若い方の参加などで、場も盛り上がったことでした。

常磐松の母校も大きな変容を遂げ、今まさに飛翔の時を迎えようとしています。同窓生として誇らしい思いとタイミングよく発行された仲俊二郎氏の『凛として』が話題の中心になりました。



## 福島支部

山田厚子  
(昭和49年/大被卒)

### 食は 愛食は 未来食は力

今年度の支部総会は昨年に引き続き会津若松で開催致しました。

平成卒の会員2名を迎え14名の参加を得6月28日(日)古民家レストラン「独古」に於いて、手作りじょうよう饅頭とお抹茶を頂きながら和やかに総会を終えることが出来ました。自然薯のコース料理では3時間かけて播り下したとろろの話に感嘆の声が上がり、自家栽培の季節野菜や氏郷米、会津トロ馬刺等“地産地消”の愛のこもった料理の数々から“食は命の源”であること又、安心安全な食生活のあり方を再確認致しました。

2人の会員によりまずハワイアン・フラダンスショーは優雅な踊りに“ブラボー”“アンコール”の歓声が上がります。華を添えたようでございます。

来年は「おくのほそ道 山形・秋田」を執筆されました田口恵子様の公開講座を予定しております。桜会の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 茨城支部

久保田節子  
(昭和40年/短英卒)

### 思い出に残る企画を

毎年この時期になるとお天気が良くなります。幸いにも6月20日(土)の総会当日には青空が広がり、会員16名の出席を得て無事総会を終了することが出来





ました。午後からは地域の方々9名にも参加して頂き、水戸駅近くの水戸京成ホテルにて講演会を開催致しました。

ご講演をお願いした実践女子大学家政学部食料科管理栄養士専攻の瀧本靖子先生の演題は、「葉膳とは？ 家庭で出来る葉膳」でした。私達とは親子ほど年齢差のある若くてはなやかな先生でしたが、体調に合わせた葉膳の食材をアンケート形式で分かり易く教えて下さいました。

思い出に残るような企画をまた来年も行って、地域の皆様とともに楽しめる会を持ちたいと思います。

毎年3回の役員会は水戸生涯学習センターの一室をお借りしています。旧茨城県庁舎のどっしりとした石造りの歴史的価値ある建物で会合をもてることを何時も誇りに思っております。

### 群馬支部 茂木初枝 (昭和45年/大被卒)

#### 源氏物語に感動

昨年9月大学主催の講演会、懇親会が高崎市で行われました。その折、井原理事長、田島学長、浦上理事より大学・同窓会の現状を伺うことができました。また岡野弘彦先生のご講演下さった源氏物語に深い感銘を受けました。



本年度の支部総会は、6月21日(日)ホテルメトロポリタン高崎で開催致しました(第19回)。続く講演会は、針谷順子先生による「今なぜ源氏物語か」と題しご講演頂きました。まず下田先生が「桃天女塾」で源氏物語を教えられたということから始まり、書かれた時代の貴族の生活、作者紫式部がなぜあの様な歴史に残る物語を書くことが出来たのか、光源氏の誕生など、女性ならではの視点でお話下さいました。会員の「もっと源氏物語について続きが知りたい」との声に針谷先生に来年も源氏物語についての講話パートⅡをお願い致しました。

懇親会は初参加のお2人を楽しい歓談を持つことが出来ました。

秋の行事は10月16日(金)渋川において昼食会を予定しております。お気軽にご参加ください。

### 埼玉支部 小河原俊子 (平成4年/院食修)

#### 充実の支部総会

6月20日(土)埼玉会館ラウンジ・ヒマワリにて田島学長、学長秘書の内田様、入試センター部長の高野様、教職課程教授高橋ヨシ子様をお招きし、第19回総会・講演会を開催いたしました。学園の皆様からは、受験生が増えてきた



入試の状況、建学の精神と教育目標の見直し、創立120周年記念整備事業2期整備計画工事状況(給食実習室等)のお話をお聞きし、新たに感動をおぼえました。午後は、国文学科教授影山輝國先生より「論語」と有坐の器」のご講演をいただきました。

まず「論語」についての細かな説明と、3章を撰ばれての解釈、そしてご持参された「有坐の器」に実際に水を加え、「やり過ぎや慢心を戒め中庸を説く教える器」であることを説明されました。楽しい雰囲気と奥深いご講演でした。

10月6日(火)彩の国めぐりは、世界遺産富岡製糸場と絹産業遺産をめぐる人物を訪ねて、見学研修いたします。深谷駅にてご参加をお待ちいたしております。

### 千葉支部 出家成子 (昭和47年/大被卒)

#### 江戸の風情が漂う町 佐原

第12回千葉支部総会を5月31日に開催しました。渋谷校舎を設計された本学教授・高田典夫先生をお迎へしての講演では、学生主役の空間づくりをコンセプトに、学生がくつろぐ空間をあちこちに設けたことや、学生が学ぶ姿、多彩な移動が見える町空間、見たり見られたり、ガラス張りの斬新な校舎の理由が次々解き明かされ、興味深く拝聴しました。



昨年10月に香取市佐原でミニ同窓会を開きネットワークが誕生しましたので、佐原の魅力をお伝えします。小野川の岸辺に広がる町並みは江戸の風情がいまもって漂い、わが国最初の実測地図を作製した伊能忠敬の旧宅をはじめ趣のある商家の家々が軒を連ねています。初夏には水郷佐原あやめ祭りや、佐原囃子にのせて絢爛豪華な大人形の山車が町並みを挽きまわされる佐原大祭夏祭りは必見の価値がございます。

活動予定  
 ・本年度総会・高田教授講演会 5/31 (28年度は6/5を予定)  
 ・会報『ミルフィーユ』発行 (8月、12月、4月)  
 ・八日市場(匝瑳市)ミニ同窓会 10/14  
 ・ときわ祭バザーに釜石・大槌復興支援協力参加 10/24・25  
 ・銚子・旭市のミニ同窓会 3月  
 皆様のご参加をお待ち致します。

### 小田原支部 守田由紀子 (昭和48年/大英卒)

#### 東海道の宿場町

平成25年9月「小田原支部実り会50周年の会」から2年が経ちました。今年は9月27日(日)に「グラン



ドホテル神奈中・平塚」に於て「総会」「懇親会と講演」を行います。講演」では心理カウンセラーによる「新しい心理学の潮流「生きて行く意味の心理学」についてのお話を予定しています。会員の皆様には、後日ご案内を送らせて頂きます。

話は変わりますが、私たちが暮らす小田原支部地域を通るJR東海道線の各駅は、その昔年間およそ50万人と推定される旅人が行き来していた東海道の宿場があった場所と重なります。例えば、程ヶ谷(保土ヶ谷)宿、戸塚宿、藤沢宿、平塚宿、大磯宿、そして小田原宿などは、そのまま今の駅とほぼ同じ位置に重なっています。

ところで、最近の東海道線の駅ホームで聴く出発を知らせるメロディーが随分とユニークになっていることにお気づきですか?茅ヶ崎駅ではサザンの「希望の轍(わだち)」、平塚駅では「七夕」、小田原駅では「お猿の駕籠屋」などです。

旅の途中に聴くこれらのメロディーに、ホッと癒される一瞬です。一度、聴きにいらっしやいませんか?

### 山梨県支部 大島節子 (昭和47年/短大栄養卒)

#### ラベンダー香漂うタオル掛け

風薫る季節となりました。私の住む山梨県甲州市勝沼町は日本一のぶどうの産地です。見渡す限り、山の際までぶどう棚が続いています。最近、そんな風景を楽しみながら歩くフットパスが静かなブームとなっています。甲州市内には様々なコースが整備され、地域の史跡めぐりのボランティアガイドも充実しています。迷っている人を見かけると声をかけ、現在地点の確認を手伝うこともあります。特別な観光地ではありませんが、四季を通して歩いている人を見かけます。自分の足、目、耳など五感を通して得られる自然の体感フットパスならではの素晴らしいものだと思います。

6月19日には恒例となりましたラベンダーの収穫を支部会員で行いました。母校のバザーに送る匂い袋の材料となるラベンダーです。また、会員の研修会として可愛いタオル掛けを作りました。洋服の袖にはたっぷりラベンダーが詰めてありますので手を拭くたび、爽やかな香りが梅雨時の室内に広がります。10月には定期総会とソムリエを講師に地元山梨のワインの楽しみ方を学ぶワインセミナーを予定しています。今後も会員の親睦を中心にした楽しい活動に取り組んでいきます。



### 長野支部 矢ヶ崎邦子 (昭和32年/短大生活卒)

#### 東山魁夷と信州

平成26年10月5日(日)長野市のホテル犀北館において、第35回支部総会と講演会、親睦会を23名の参加を得て開催しました。



実践女子学園理事長井原敬様をお迎えし、母校の創立120周年記念整備事業完成のお話を伺い、都心の渋谷の地での益々の発展を慶び合いました。

その後一般公開の講演会を併催。講師に長野県信濃美術館学芸係長伊藤洋子氏(同窓生)をお迎へして「東山魁夷と信州」と題する講演をして頂きました。

「風景は心の鏡である」という東山芸術の真髄を多角的に紹介され、時のたつのも忘れ聴き入りました。長野県の風景をこよなく愛した日本画家東山魁夷から約500点の作品と関係図書の寄贈を受けた県は、東山魁夷館を善光寺の東隣、東山魁夷が眠る丘の麓の長野県信濃美術館に併設して、平成2年4月に開館しました。閉会后、美術館を見学しましたが、そこでも同窓生の若い学芸員さんが活躍されていました。

平成27年度長野支部総会は10月4日(日)、伊那プリンスホテルで開催する予定です。また、どんな出会いがあるでしょうか、楽しみです。

### 新潟支部 寺澤昭子 (昭和41年/大食卒)

#### 新潟は学祖の情熱が残されている!!

下田先生の故郷、岩村への旅の企画を知り、参加したいと思いましたが、新潟から岩村は思いの外遠いのです。具体的に新潟支部の方から、参加の声は聞こえてきません。今でも遠いと思われるのに、明治32年、新潟の帝国婦人協会発足のために、先生は来県され歌を2首詠んでおられます。



「祝電」として寄せられた歌  
 「いちはやく根ざしをわけし姫小松こより  
 千代の陰はなすらむ」  
 「勤儉」という題のついた歌  
 「見よや人草の葉末のしづくだにつもればふかき淵となる世を」

です。後首は現在、新潟青陵大学の会議室に掲掲されており、先生の直筆です。関心のある方はご一報ください。

しかしながら、越後新潟にも詩や歌と無心の書により人々の心に訴えた良寛様がいらっしゃいました。新潟支部では良寛様の素朴な人柄を知るべく企画したいと考えております。

### 富山支部 山本順子 (昭和33年/短大被服卒)

#### ぜひ富山へお越しください

北陸は遠いところと思われていますが、北陸新幹線が開通し東京→富山間は2時間弱で結ばれました。富山の観光地は屋外が多いのが特色です。一年を通しての観光は少ないですが、いつおいでになってもその季節にしか味わえない観光と食べものがあります。コンパクトな県ですので、山から海迄50kmと近く、両方楽しめます。ものづくり県として歴史を刻んできた富山の観光はこれから歩き始めたところです。



富山の方言で「人さまにみせる変わったもんは何もないちゃ」という県民性ですが、皆様是非お越し下さいませ。

### 石川支部 紙谷玲子 (昭和42年/短大被服卒)

#### 加賀石亭での総会

2015年2月15日石川支部は加賀石亭にて総会及び懇親会を開きました。年齢をこえて、学生時代に戻ったように会話が弾みました。



懇親会の後、近くにある中村美術館(主に茶道具を展示)を見学、鈴木大拙館(哲学者)で、瞑想にふりける本多の杜公園を散策しながら石川県立美術館へ、辻口シエフのお店でお茶を、ここでもお話がつきません。新幹線開通前でしたが、街は観光客でにぎわっておりました。次回もよい企画を考えたいと世話人一同思っております。

### 福井支部 谷 洋子 (昭和42年/大食卒)

#### 梅雨のひと時

2014年に北陸新幹線が金沢まで開通しました。福井県には2022年に開通する予定となっており、福井市の駅前も恐竜のモニュメントが出来上がり、にぎやかになってきました。



新緑が梅雨に輝く6月28日、平成27年度総会を福井市「チャイナテーブル福井店」にて行いました。総会後の懇親会では、会員7名が中華料理を囲み会食をしながら、和やかな雰囲気の中、近況などを語り合いました。新しくなった渋谷校舎の現状についてや下田歌子先生生誕地へのツアーについて、また来年度の総会開催場所などについて会話はとぎれることがありませんでした。今年も、梅雨の小雨の中、ホッと和んだひと時をすごしました。

### 岐阜支部 伊藤敬子 (昭和41年/大食卒)

#### 愛知支部との合同同窓会

岐阜支部の同窓会(若葉会)は、愛知支部と各年毎当番制で実施しています。26年度は岐阜支部が担当、10月29日(水)、交通の便の良い古屋駅マリオットホテルのイタリア料理店にて開催いたしました。

出席者は11名、年々高齢化の為か、出席者が減少していることは寂しいことですが、今回は嬉しいことに、若い会員の姉妹そろっての初めての参加と、もう1組、以前にも出席して下さった姉妹の会員、11名出席者のうち、2組4名の方が姉妹で参加!すごいことだと思いませんか? 美味しい料理をいただきながら、チョット



昔の学園生活・寮生活でのなつかしい思い出話、我が町の町自慢等、会話ははずみ、楽しい時間を過ごすことができました。

そして、お互いの健康を願いつつ、次回での再会を楽しみに…と散会いたしました。今回は愛知支部、よろしく願います。

### 静岡支部 鏡島真理子 (昭和52年/大被卒)

#### 静岡支部平成27年度活動報告

今年度も、静岡支部では、発会以来の目標である地域の教育文化振興のため、恒例の市民公開講座を、28年1月21日(木曜日)に開講し、併せて総会も開催予定です。

先年度の公開講座では、『正法眼蔵』に加え、園児による折り紙講座も行い、かわいい講師の真剣な指導のもと、一同楽しく、歳を忘れて制作に取り組みました。

今年度は、大学短大後援会の市民講座も静岡市で開催され、支部会員のご協力を頂きましたが、10月24・25日の本部校会バザーには、今年も物品寄付で協力をする予定です。バザーには、静岡茶や削り節などで、ささやかな華を添えて居りますが、ご自慢の作品などありましたら、ご協力をお願いします。バザーでお弁当を求め、同窓会館で頂きながら、様変わりした渋谷に立派にそびえ立つ新校舎や、その一階ギャラリーを見学し、母校を楽しむのもいかがでしょうか。参加ご希望の方は、ご連絡ください。

今年度も、母校の発展と地域文化の振興を願って、支部活動を継続して参りますので、ご理解をお願い致します。

### 愛知支部 大塚昌代 (昭和32年/短大生活卒)

#### 岐阜支部と合同支部総会を開催

### 三重支部 竹腰 葵 (昭和44年/大英卒)

#### 作陶にチャレンジ

三重県では「伊勢・志摩サミット(平成28年)」と、「第27回全国菓子大博覧会・三重(平成29年)」の伊勢市内開催が決まり、明るい希望が未来に展開されています。平成25年に第62回式年選宮がとり行われましたが、社殿は今でも木の香が新しく、お参りの方々で賑わっています。

三重県支部では、年に一度会員の方達にお集まりいただき、総会を開いています。毎年、三重県にお住まいの方をゲストにお迎へして、講座を開いておりましたが昨年「三重県」を意識して、三重県を知ってみたいというコンセプトで人選を行っています。平成27年

8月22日の総会では、三重県三重郡菟野町、尾高創房村、馬酔木寮・森正氏をお訪ねし、「土のおもしろさ」の演題で、お話をお伺いして後、森正氏のお



仕事場で陶陶させて頂いた作品を、窯で焼いて頂くことになっています。

緑の樹々、川のせせらぎの中で一時アーティストを楽しんでみたいと思っております。どうぞお気軽に参加下さいませ。

三重支部も若い会員の方々の入会が無く、案じられております。色々なご意見をいただきたく思っております。この情報をご覧になられ、ご一報くださればと思っております。

今回の総会は昼食に「和食」を御用意しております。お料理を楽しみながら、和やかにお話を交わりたいと思っております。どうぞ初めての方も是非、ご参加下さいませ。何なりとお気軽にお電話下さいませ。竹腰 葵 080-1615-4888 Takekosi-mie@docomo.ne.jp

## 関西支部 並川みき子 (昭和45年/大関卒)

### 魅力あふれる関西支部

第82回総会・親睦会・講演会を平成26年10月21日(火)11時30分より大阪・あべのハルカスマリオット都ホテルにて、浦上理事実践桜会理事長と、なよたけ編集長建部静代広報部理事をお迎えして、開催いたしました。昨年に引きつづき、90代の大先輩、昭和14年ご卒業の黒瀬朝子さま、昭和20年ご卒業の黒澤幸子さまにご出席頂きました。



総会・親睦会終了後の公開講演会は、実践女子大学文学部国文学科教授、文芸資料研究所所長の栗原 敦先生を講師にお迎えし、「向田邦子の文学世界-『男どき・女どき』を中心に」お話しいただき、母校教授の久しぶりの講義に同窓生一同その講義内容に引き込まれ、楽しい時間を過ごしました。終了後はハルカス300、60階展望台からの大阪の風景を堪能しました。本年、平成27年は、第83回総会・親睦会・講演会を平成27年10月20日(火)11時30分より神戸オリエンタルホテル(旧居留地内)6Fオリエンタルルームにて開催いたします。

平成27年度活動予定  
・平成27年5月17日(日)平成27年度定時総会出席  
・平成27年6月3日(水)関西支部 役員・幹事・地区委員 合同委員会  
・平成27年7月14日(火)兵庫県の集い(第4回)  
・平成27年10月20日(火)第83回関西支部 総会・親睦会・講演会  
・平成27年11月14日(土)15日(日)実践桜会本部主催「下田先生の故郷岩村の旅」参加  
・平成27年12月関西支部 役員・幹事・地区委員合同委員会

実践桜会関西支部は関西2府4県にまたがる広範囲な支部です。支部会員数は218名(平成27年5月末現在)です。担当役員、各幹事は兵庫・大阪・京都をはじめとして、2府4県から選出し構成しています。西から実践桜会を盛り上げていきます。※関西支部の魅力と各府県のアピールポイントは実践桜会HPをご覧ください。魅力を詳しく掲載しています。

## 鳥取支部 常田明美 (昭和41年/大関卒)

### 鳥根支部との交流

実践桜会鳥取支部は平成6年4月に発足し、当時は戦前から実践に在籍された先輩が多数おられたのですが、物故された方もあり、また若い会員も少なく、会員数が減少してまいりました。4年前までは毎年1回市長・医師・文化人の方をお招きして講演・親睦会を開催してまいりましたが、限られた方の出席となってまいりましたので、楽しく視察研修する方式にシフトしてきました。



昨年11月1日は発足された鳥根支部の皆様と鳥取・鳥根合同同窓会を出雲文化伝承館にて開催いたしました。桜会本部より浦上理事長はじめ総務・文化・広報の各担当理事にご出席いただき、懇談会また大谷支部長様より香席を体験させていただきました。

翌11月2日は太田市の世界遺産石見銀山を見学。雨模様の中満足して帰宅いたしました。本年度は浦上理事長様よりお誘いいただき、実践桜会岩村への旅を計画しております。



鳥取県は全国で最後のスターバックスが開店し、平井知事の「スタバはないがスタバ(鳥取砂丘)はある」との言葉がマスコミに載り、大変な話題となりました。平成27年度の活動予定  
・役員会  
第1回 平成27年6月24日(水)  
第2回 9月上旬予定  
・行事予定  
11月14日(土)～11月15日(日)実践桜会全国交流ツアー・学祖の故郷岩村への旅に参加

## 鳥根支部 大谷香代子 (昭和49年/大関卒)

### 松江出雲に母校の名を

鳥根支部は、一昨年結成されて昨年初めての支部総会を開催いたしました。その折には、お隣の県鳥取支部から支部長様はじめ御一行の皆様が態々鳥根にお出掛け、合同支部総会を開催することとなりました。実践桜会からは浦上理事長・高田総務部長・建部広報部長・西向文化部長様方々ご臨席頂きました。初総会ということで不安もありましたが皆様のお蔭で、賑やかにまた楽しく開催できました事に感謝しております。



本年度は、去る6月21日に支部総会を開催いたしました。その中で鳥根支部本年の事業として、企画講演会を共催することになりました。来る11月29日に場所は出雲文化伝承館。長らく実践女子大学教授・名誉教授として沢山の御教養を賜った三條西公正先生のお孫様、現在香道御家流23代



宗家で学習院女子大学講師の三條西公彦先生をお迎えいたします。この事業が、実践女子大学の名を松江出雲地方に深めることが僅かでも出来たら幸いです。

鳥根の松江城が国宝になりました。その松江城に由来し、「松江城姉妹鉄砲隊」が結成されていますが、その姉妹鉄砲隊に入隊し、演武を行っている支部会員も発生しております。多くの方々をお迎えするため張りきっている鳥根支部です。

## 岡山支部 谷本淑恵 (昭和54年/大関卒)

### 支部開催日春から秋へ

ここ数年、春の開催だった支部会、今年度は気分を変えて秋に開催することになりました。10月1日(木)場所は「せとうち児島ホテル」。瀬戸大橋が眼下に見える素晴らしいロケーションで、地中海よりも綺麗!との噂がある(笑)瀬戸内海、そして行き交う船を眺めながら、ホテル自慢の熟成肉がメインのランチコースを食べ、楽しいひと時を過ごしたいと思っております。どうぞ奮ってご参加ください。会の様子は来春の「なよたけ」にてご報告します。



## 山口支部 根ヶ山祥子 (昭和61年/大被卒)

### 魅力ある故郷山口

山口支部には現在100名を超える会員がおります。三方が海に開かれた山口県は古くから水産業が盛んで、豊富な海の幸、山の幸をいかした豊かな食文化が育まれました。今年は大河ドラマの影響で、萩市内の料亭がごぞって『ふみ御膳』なるものを提供しています。9つに仕切られたお重の中に、趣向を凝らした郷土料理が楽しめます。



山口と言えば、秋吉台やその地下に広がる鍾乳洞が有名ですが、木造の五連橋錦帯橋、瀬戸の景色を堪能できる大島大橋、映画の舞台にもなった角島大橋、本州と九州にまたがる関門橋など、美しい橋も自慢です。ぜひ一度お越しいただきたいと思っております。このような魅力ある故郷山口支部は活動しております。7月25日(土)に、竜宮城を模したと言われる赤間神社で総会を開きます。久しぶりにお会いする方々と旧交を深めたいと思っております。代議員制についての報告や支部運営についての協議はもちろんですが、何より県内会員親睦の場として楽しい会にしたいと考えております。またご報告させていただきます。

## 愛媛支部 城徳かをる (昭和41年/短生活卒)

### 坊ちゃん・正岡子規の街松山

昨年度の支部総会は、松山市「道後山の手ホテル」で開催いたしました。下田歌子先生の『女子の修養』を1冊づつと『家政科会だより』のコピーをお渡しした後、出席者の一人が上京した時、母校へ立ち寄ったと、母校の新校舎の写真を見ながら、詳しく話してくださり、ひと時学生時代の思い出話になり、和気あいあいのうちに、諸先



輩方との時間が瞬間に過ぎていきました。

俳都松山には、道後公園に松山市立子規記念博物館があります。一句投げかけてはいかがですか?

日本最古の温泉といわれる道後温泉につき、坊ちゃん列車(路面電車)に乗り、柑橘類日本一生産量を誇る「愛媛のみかん」を食べにぜひお越しください。

10月4日(日)松山市で、支部総会を開催します。

## 福岡支部 玉井由起子 (平成3年/院被修卒)

### 他支部と連携して

6月14日(日)福岡支部再結成から2回目の総会・研修会を「博多座」にて開催いたしました。総会で定期総会報告等を行い、引き続き研修会で「歌舞伎の楽しみ方」と題して、(株)博多座の上野様(セールスマネージャー)にご講義いただきました。終了後、「6月歌舞伎」を観劇し、昨年度の「香道」(鳥根支部長・大谷様に講師をお願いいたしました)に続き、本年度も日本の伝統文化に触れ、有意義な研修会となりました。



福岡と聞いて、太宰府天満宮や博多どんたく、祇園山笠などを思い浮かべる方は多いのではないのでしょうか。辛子明太子、博多ラーメンの屋台も観光客に人気です。県庁所在地である政令都市であり、また志賀島の金印「倭奴国王印鑑」にみられるように、古い歴史をもつ都市でもあります。北九州市は明治に日本初の近代的製鉄所の八幡製鉄所が建設され工業地帯として発展を遂げてきました。県の南には筑後川が流れ筑紫平野が広がり、福岡の米どころとなっています。博多織、久留米紬、小石原焼などの伝統工芸は全国に知られています。空路や陸路で全国からのアクセスもよい福岡へ、会員の皆様もぜひお越しください。

## 佐賀支部 藤山たか子 (昭和49年/大関卒)

### 紫陽花の頃

6月4日、今年も支部総会の日を迎えました。会員数47名で、うち12名の参加で決して多くとは言えませんが、少人数だからこそ得られる利点もたくさんあり、先輩後輩を問わず、話しやすく、親睦もいっそう深まりつつあります。特に佐賀支部の歴史は古く、88歳から



50歳代という年代を超え、懐かしい学生時代の話に花が咲きました。先日、各支部に配布されました下田先生の生涯「凛と

して』の本の内容にふれ、先生の女子教育に生涯を捧げられた情熱に深く感動し、実践女子大の卒業生であることを改めて強く誇りに思う今日この頃でした。

## 長崎支部 山脇美代 (昭和55年/院食修)

### 楽しく、美味しいひととき

昨年の長崎支部総会は11月3日(9:30～15:00)に行いました。テーマは、「今評判の純心アップルパイを作ろう!」で、12名の参加があり楽しい実習でした。この参加者の中には、同窓会会員から声をかけられて参加されたという方もいました。パイを焼いている間に昼食を頂きながら、総会を行いました。後日、参加者の1人から「今まで経験したことのない美味しいひとときを与えていただきありがとうございます。出来ない立派なものが出来上がり、うれしく思いました」と喜びの礼状が届きました。



平成27年度の総会は、下記の日時・場所で開催を予定しております。11月3日(火)11:45～14:45 場所:西洋館(かがりや)

その後、長崎大学医学部内の記念講堂に移動して、パグウォッシュ世界大会の公開シンポジウムに参加、18:00～現代版「長崎の聖母」を観劇(いずれも自由参加)の予定です。皆さまの参加をお待ちしています。

## 大分支部 清水登美子 (昭和50年/大関卒)

### 10月に総会予定

大分支部では2年に1回総会を開催しています。本年は開催年にあたり、10月に予定しています。大分支部の維持拡大のため、たくさんの卒業生(新人の方大歓迎)のご参加を期待しています。ご連絡を心よりお待ちしております。連絡先:清水登美子 090(7388)1156

## 鹿児島支部 山口圭子 (昭和57年/大関卒)

### 第30回国民文化祭

6月14日(日)料亭「竹千代」にて、支部総会、懇親会を開催いたしました。昨年度活動報告・会計報告・桜会定時総会の報告・今年度予定・校歌斉唱と、例年通りの総会の後、同窓生ならではの楽しい会話がはずむ懇親会。和やかなにひと時でした。



さて、今秋10月31日～11月15日、第30回国民文化祭が鹿児島県で行われます。音楽・舞踊・美術・文芸・歴史生活文化・伝統芸能等々、いろいろなジャンルにおいて全国からの沢山の参加者により日頃の活動を発表するすばらしい催しです。

同窓会関係では、「香道」において、和草会と実香会の方々、11月14日15日「生活文化総合フェ

スティバル」にて、体験香席や講話などを実施して下さるとお聞きしています。

今年2月22日には、国民文化祭応援事業として、和草会の大谷様が「親子教室」を鹿児島にて開かれ、支部の者たちも体験・お手伝い等させて頂き、香道の奥深さに感銘を受けました。

香道は、鹿児島ではあまり馴染みのない文化ですが、一人でも多くの方達に触れていただけるように応援できたらと思います。

同窓生の皆様もこの秋、鹿児島で新しい文化との触れあいを楽しみにお越しになりませんか。

## 沖縄支部 島袋節子 (昭和41年/短大生活卒)

### 6月の沖縄

沖縄の6月は特別である。20万人余りが犠牲になった沖縄戦から70年目の節目の年、6月23日の慰霊の日沖縄中が鎮魂につつまれた。その日はご遺族はもとより安部首相やケネディ駐米大使らも参列して「沖縄全戦没者追悼式」が営まれた。「平和の礎」に名前を刻まれた24万人の犠牲者の冥福を祈り、不戦の誓いを新たにしたのである。



そのような6月の最後の日曜日に支部総会が開催された。代議員制になって初めての定時総会の報告と、渋谷校地の近代的な新校舎を見学してきた旨を写真を見ながら報告したので、あまりの変わりように一同隔世の感はいなまなかったようである。その後、沖縄支部の平成26年度の事業報告、決算報告、続いて平成27年度の事業計画案・予算案について討議した後、講演と見学を予定している不屈館へと全員場所を移動した。



そのような6月の最後の日曜日に支部総会が開催された。代議員制になって初めての定時総会の報告と、渋谷校地の近代的な新校舎を見学してきた旨を写真を見ながら報告したので、あまりの変わりように一同隔世の感はいなまなかったようである。その後、沖縄支部の平成26年度の事業報告、決算報告、続いて平成27年度の事業計画案・予算案について討議した後、講演と見学を予定している不屈館へと全員場所を移動した。

そのような6月の最後の日曜日に支部総会が開催された。代議員制になって初めての定時総会の報告と、渋谷校地の近代的な新校舎を見学してきた旨を写真を見ながら報告したので、あまりの変わりように一同隔世の感はいなまなかったようである。その後、沖縄支部の平成26年度の事業報告、決算報告、続いて平成27年度の事業計画案・予算案について討議した後、講演と見学を予定している不屈館へと全員場所を移動した。

## 英国支部 松嶋みどり (昭和49年/大被卒)

### 活気ある Borough Market を探索

総会の待ち合わせ場所に時々使わせていただいている日本クラブが、ピカデリーサーカスからロンドンブリッジの近くに引っ越したため新しい場所を確認に行きました。そして何といてもロンドン・ブリッジ(London Bridge)駅と言えば「バラマーケット(Borough Market)」の市場です。昔はイギリス国内の野菜や果物などを専門に扱う市場でしたが、今では世界各国の食材や料理が並び、ロンドンの人々や、もちろん観光客で大変賑わっています。今回初参加の方がなんとこのマーケットを知り尽くした方。案内をしていただき「美味しいものは幸せにしてくれる」と言うことで

ちょっと買い物しました。



## 実践ときわ会

科会長:古藤 黎子

実践ときわ会は、実践女子学園中学校・高等学校を卒業された方が入会できる科会です。現在、会員数は120余名。卒業生の80～90%が他大学へ進学する状況下で、正直のところ、どこまで続けられるかどうか展望は余り明るくありません。1月の成人の日のお祝いの盛会ぶりがいつの日かときわ会に反映されることを願いつつ、皆様のお力をお借りしながらなんとか頑張って維持していく所存です。どうぞ桜会のみならず、実践の中高をご卒業の皆様、よろしくお願ひ致します。

年間行事  
 ■第3回 初風緑さんの「楽しくストレッチ」  
 日時/10月15日(木) 13時半～  
 会場/実践桜会会館 参加費 500円  
 ■渡辺美佐子さん観劇会  
 劇団「燐光群」に客演  
 日時/11月の予定  
 会場/「座・高円寺」



毎月1回定期的に会館の教室に集合、どんなでも入会は随時で大歓迎です。各講習会とも新しい作品に意欲的で、中でもハーダンガー教室では若い方の入会も増えてきて、先生から頂くすてきなデザインで夫々に合わせてマイペースで進み、お互い月1回の講習会での顔合わせを楽しみに製作しています。

・ハーダンガー刺繍教室 毎月第2木曜日  
 ・染色教室(楓会) // 第2火曜日  
 ・編物の会 // 第3金曜日  
 ・日本刺繍教室(萌黄会) // 第1・3木曜日  
 ■古切手収集 古切手を集め福祉団体に送っています。  
 ●連絡先: TEL 03-3307-6472 (なかおか ひさえ)



「黄昏にロマンス」観劇後、渡辺美佐子さんを囲んで

■「祝・成人の会」協力  
 日時/2016年1月11日(月・祝)  
 会場/ 桃天館・カフェテリア  
 ■ときわ会総会  
 日時/2016年6月12日(日)  
 会場/ 実践桜会会館  
 総会後、三遊亭道楽師匠による落語口演会  
 ■「ときわ会通信」年2回発行 (ことう れいこ)

## 実践技芸科会

科会長:中岡 久恵

技芸科の最後は昭和20年でした。会員高齢のため26年度の総会は取り止めとなりましたが、活動として下記の定期講習会などをしております。

年間行事  
 ■バザー手作り品の製作・寄贈  
 日時/6月25日  
 お手玉を作りました。  
 ■定期講習会 会場:実践桜会会館



## 実践被服科会

科会長:松岡久美子

今年度の総会は渋谷実践女子大学120周年記念館の講義室、懇親会は9Fホールを使わせて頂きました。一昨年は実践桜会新会館、昨年は開校間際の新校舎見学と、母校に大変お世話になりました。関係各位のご配慮に感謝致します。

現在、日野校舎の第二次整備計画が進められています。日野校舎は旧家政学部、現生活科学部のベースです。素晴らしいキャンパスになることでしょう。卒業生にとっては嬉しいトピックスが続きます。創立120周年記念DVD「受け継ぐ伝統・未来をみつめて」のその先も輝かしいものであるように、被服科会も卒業生の輪を繋げる努力をして参ります。

大学・短大被服系、生活環境学科系卒業生の皆様、繋がりましょう。ご入会は随時お受けいたします。

年間行事  
 ■総会・懇親会  
 日時/4月18日14:00～  
 会場/ 実践女子大学120周年記念館702講義室  
 総会後、学内見学と懇親会(9Fホールにてビュッフェパーティー)  
 ■鑑賞会<ウィーン少年合唱団鑑賞とティータイム>  
 日時/6月14日(日)  
 会場/ オペラシティーコンサートホール



■見学会<富岡製糸場と絹産業遺産群を巡るバスツアー>  
 日時/9月15日(火)、世界遺産4遺産の内3遺産(富岡製糸場・高山社跡・田島弥平旧宅)をガイド付きで見学  
 ■講習会<フリーメタリコのプローチ作り>  
 日時/11月29日(日) 13:00～16:00  
 集合場所/ 桜会会館  
 参加費/4,000円  
 申し込み締切/11月15日(日)  
 ■会報誌発行  
 ・歌ごろもニュースNO.19 6月1日発行  
 ・歌ごろも24号 12月1日発行予定  
 ■ときわ祭桜会バザー協力品製作  
 生革のプローチを製作、桜会に寄贈。  
 ●連絡先:TEL&FAX 03-3721-9378 (まつおか くみこ)

## 実践家政科会

科会長:熊切冨子

家政科会総会も55回を終わりました。科会員、又、多くの卒業生のご参加を戴き有難うございました。学園より井原理事長様田島学長様にご出席戴き学園の様子をお伺いできました。

男女共同参画が唱えられてから何時の間にかこの声は聞こえなくなりました。が、いよいよその時代が根付こうとしております。学園側もすでに社会に進出する力をつけるべき素質を教育していると思います。

多くの女子大生が卒業していくなかで、この言葉のように男性と肩を並べて能力、活力を発揮できるのか、問題視致します。社会のなかで働き、社会に通用出来る為力をつけましょう。勉強していきましよう、強く申し上げたいと思います。

新しい時代をつくる為に、若い方達に繋ぐ為に、努力もしなければ実践120周年が来るのか心配致します。

年間行事  
 ■講演会 「和食を考える」本多京子氏～総ての世代の「食育」について～  
 日時/3月8日(日) PM1:00～  
 会場/ 新校舎9F カフェテリア  
 ■観劇会「居酒屋お夏」名取裕子  
 日時/4月19日(日)  
 会場/ 三越劇場  
 ■「家政科会たより」発行  
 日時/5月20日(水)  
 ■第55回 家政科会総会  
 日時/5月24日(日) 10:30～  
 会場/ ホテルニューオータニ  
 ・家政科総会にて学園理事長・学長に「卒業後の社会進出について」をお尋ねしたいと思います。



・クラシックコンサート 12:40～  
 ■フランス料理講習会  
 日時/7月26日(日)  
 会場/ウラクアオヤマ  
 ■福祉施設作業用エプロン縫製  
 日時/9月16日(水)  
 会場/ 桜会会館  
 ■バス見学会  
 つくば学園都市研究機関見学  
 日時/11月11日(水)  
 ■歳末助け合いに寄附、キリスト教海外協力会に支援  
 日時/12月15日(火)  
 ■新年会  
 日時/2016年1月20日(水) 12:00～  
 会場/ハイエトリージェンシー  
 楽しい福引きを致します。  
 ●連絡先:TEL&FAX 045-571-0213 (くまきり とみこ)

## 実践国文科会

科会長:若松幸子

今年度国文科会行事は、下記のように企画いたしました。

4月25日、国文科会総会後開催した記念講演会大学国文学科主任教授横井孝先生ご講演には会員以外の多数のご参加があり盛況でした。

国文科会は、学科、卒業年を超えた会です。皆様のご参加をお待ちいたします。

年間行事  
 ■総会  
 日時/4月25日(土) 13:00～  
 会場/ 渋谷大学内  
 ■記念講演会(総会後) 14:30～  
 講師:横井 孝先生  
 実践女子大学国文学科教授「源氏物語がもたらした縁」一紫式部と孝標女をつなぐもの  
 ■講演会終了後大学内施設見学 香雪記念資料館 向田邦子文庫 図書館等  
 ■会誌「りんどう」発送 7月  
 \*上記については終了しました。  
 ■能・狂言鑑賞会  
 日時/10月10日(土)  
 会場/ 国立能楽堂  
 能「夕顔」 狂言「咲嘩」  
 ■東京寄り道文学散歩「駒場界隈」  
 日時/11月20日(金)  
 日本近代文学館、旧前田家本邸(重要文化財)、日本民藝館、東大内レストランにてランチ  
 ■新年会 平成28年1月24日  
 ●詳細は「りんどう」または、ホームページをご覧ください。  
 ●連絡先: TEL 045-543-3963 (わかまつ さちこ)



## 実践英文科会

科会長:山内典子

6月7日(日)第39回総会が開催されました。今年度の事業計画などが承認され、新年度がスタート致しました。総会後の講演会は、実践女子大学文学部英文学科准教授の土屋結城先生により『前菜か、デザートか…マッサンとエリーをつないだブディングとは』と題して行われました。昨年度の一年間、イギリスに研修で滞在されていた体験などを交え、今春のNHKの朝ドラの一場面を映し、そこからイギリスにおけるブディングの歴史など、古書を閲覧しながら、とても興味深いお話が続きました。

年間行事  
 ■会報誌:「英文科会だより2015」  
 9月発行  
 ■ときわ祭バザーに協力  
 日時/10月24日(土)、25日(日) (やまうち のりこ)



■見学会  
 今年度は桜会主催の「岩村を訪ねる旅」に参加する形で開催  
 日時/11月14日(土)、15日(日)  
 ■新年会  
 日時/平成28年1月24日(日)  
 会場/ 銀座「楼蘭」  
 ■常設勉強会: 於実践桜会会館  
 輪読会 A:  
 第2・第4金曜日 10:30～12:30  
 輪読会 B:  
 第1・第3金曜日 10:30～12:30  
 ●連絡先:TEL&FAX 045-862-3744 (やまうち のりこ)

## 実践キャリアネットからのお知らせ

実践キャリアネットは、今年で12周年を迎えました。これまで、「仕事」をキーワードとして世代・学部を超えた実践ネットワークの充実をはかってまいりました。今後はキャリアアップのための勉強会や、在学生の就職に向けての相談会、異業種交流会を充実させてまいります。

皆様一度セミナー等に参加してみませんか。お待ちしております。

## 2015年度の活動報告・予定

●総会・講演会  
 日時・会場: 2015年6月20日(土)・実践桜会会館ホール  
 講師: 渡辺美佐子氏(本学卒業生・女優)  
 講演会の最後に渡辺さんのエッセイ「りんごのほっぺ」を朗読してくださいました。渡辺さんの暖かいお人柄が伝わってくる講演会でした。

●セミナー  
 第1回  
 日時: 2015年11月28日(土) 会場: 未定  
 講師: 貝山幸子氏(本学卒業生・シャンソン歌手)  
 第2回  
 日時: 2016年2月20日(土) 会場: 未定  
 講師: 山内千夏氏(本学卒業生・料理家)



●卒業生のための仕事についての何でも相談会(卒業生のための就職・転職相談会改)  
 日時: 毎月第4土曜日(但し8月・10月・12月はお休みです。)  
 会場: 実践桜会会館  
 キャリアカウンセラーがご相談に応じます。お気軽に桜会事務局までご予約下さい。

## 【入会方法】

入会申込はいつでも受け付けております。桜会事務局(月～土 9:30～17:00 日曜・祝日を除く)  
 TEL: 03-3407-7459  
 FAX: 03-3499-0835  
 ※HPからも申込ができます。  
<http://www.j-sakura.org>  
 年会費: 2,000円(入会金は不要)  
 振込先: みずほ銀行 渋谷中央支店  
 普通 1748354



# 国際交流基金奨学生 2名を決定



陳 陽淑 ジンヤンスク  
大韓民国

東京外国語大学 学部4年  
言語文化学部 言語文化学科  
日本語専攻

日本語教師をやっていた母の影響で、子供の頃から日本文化に興味を持っており、もっと日本について知りたいと留学を決意しました。

一方、長年続いている日韓関係の悪化を大変残念に思っています。互いに真の姿を知らず、偏見の目で見ていることが、両国の関係を不安定にしている原因の一つであると考えます。そこで私は、日本の素晴らしい面を伝え、関係修復に役立てたいという思いから、韓国の人々にボランティアとしてガイドサービスを提供しています。来日する韓国人旅行者に、留学生である私が日本について伝えることで、互いの国に対する理解を深めることができ、好評を頂いています。ガイドの際には、真の日本という国を知って頂けるよう、現在を生きる日本人の文化や生活が体験できるプランの企画を心掛けました。そのため、観光地めぐりの他に、日本人と触れ合う場を設けることもあります。韓国人旅行者の中には、せっかく日本に来たのにも拘わらず日本人と触れ合えるのはお店の店員さんとの会話だけだと、残念に思われる方が多くいます。そのような方のために、私は所属

する大学で韓国語を勉強する日本人の友人に参加してもらい、日本人と会話ができる場を提供しています。人気の観光地をめぐり、ショッピングをするだけの日本旅行とはまた一味違う、日本での思い出づくりに寄与することができたのではないかと考えます。実際に、サービスを利用した方からまた日本に来たい、日本が好きになったというお声を頂き、大変嬉しかったです。

現在、東京外国語大学の言語学ゼミに所属しており、日本語と韓国語の対照研究を行うことで、言語の面から両国を理解しようと考えています。「日本語と韓国語におけるジェンダー表現の対照研究」というのがこれまでの研究テーマで、日本語における男性語と女性語は、韓国語においてどのように表現されているのかを調査してきました。卒業論文はさらに発展させ、「日韓語の外来語の受容と変遷の音韻論的分析」というテーマを考えています。研究のねらいを端的に説明すると、外国語がいかにして日本語と韓国語の中で音韻論的に変容し、外来語として使用されるようになるのかを分析することで、日本語と韓国語の外来語における共通点と相違点を明らかにするというものです。

大学卒業後は東京外国語大学の大学院に進学し、ゼミの指導教員である風間伸次郎先生の研究室で研究を続けたいと考えており、引き続き日本語と韓国語の対照研究を深めるつもりです。博士課程を修了した後は韓国に帰国し、自分の研究の成果を基にして、韓国における日韓語の対照研究に役立てたいと考えます。

今後とも日本と韓国の懸け橋となるべく、研究及び活動を頑張っていきたいと思っています。



ゼミの仲間と

平成27年度選考委員会を3月に発足。ホームページでの一般公募と、昨年度応募者のあった大学にも募集しました。今年度の応募者は留学生86名(12大学院、13大学、11カ国)でした。第一次書類選考委員会を6月8日(月)に第二次面接選考委員会を6月21日(日)に行い、2名の奨学生を決定しました。給付額は1名につき年額48万円です。選考委員は各役員選出母体から推薦された5名と、理事長、常任理事5名、計11名で構成されております。奨学生との交流会を10月3日(土)と平成28年3月5日(土)の2回開催いたします。参加ご希望の方は実践桜会にお申し込みください。



呉 爽 ゴソウ  
中華人民共和国

早稲田大学大学院 博士4年  
文学学術院美術史学コース  
東洋美術専攻

## 日本で学びたい理由

私は大学時代から茶道に大変興味を持ち、茶道について研究することを決めました。2007年9月より北京外国語大学日本学センター文化コースに入学し、2年生の時に茶道裏千家の奨学金を得、半年間京都で研修をしながら論文の資料を収集しました。

特に注目した資料は、中世から近世にかけて中国の各地で生産された染織品のうち勘合貿易や朱印船貿易などによって日本に船載され、貴顕や寺社、茶人らに珍重されてきた、いわゆる「名物裂」です。これらの染織品は、茶道の興隆にともなってお茶の世界に持ち込まれ、茶入の仕覆や表装裂として用いられました。裂地の断片までも大切にされ、アルバム状に貼付した「裂手鑑」が多く作られました。明の染織工芸を論じる際、名物裂は欠かすことのできない貴重な宝庫といえます。しかし名物裂の故郷である中国では、「名物裂」の名称や存在すら知っている人はほとんどいません。一方、日本の名物裂を研究するには、中国の染織の状況も考慮にいれなければならないのですが、従来の名物裂研究では、中国側の同類品との比較は稀です。中国の遺品が少ないため、なかなか比較研究にまで発展しませんでした。しかし実際には、明の染織品は仏教経巻によって保存されたものが驚くほど多いのです。私は、こうした中国側での資料の不足を補うものとして、永楽北蔵の表装の染織に注目しました。これは、染織工芸史に資するだけでなく、両国間の文化交流史、日本における中国文化の受容の実態に迫るテーマだと考えます。

「名物裂と宋・元・明・清の染織芸術——中日美術交流史の一側面」と題する修士論文において、研究テーマの一部をなすものを書き上げました。当論文は日本学センターの優秀論文に選ばれ、さらに私はこのテーマをもって大使館推薦で日本政府(文部科学省)奨学金を取得しました。大学時代から既に日本学の研究者を目指した私にとって、博士課程に入り研究を深めることは当然のことです。私の研究テーマは日本美術史の領域に深く関わるため、現地で長期間の調査及び専門家からの指導が必要です。将来中日

学術文化交流の懸け橋になるためには、日本語能力を一層磨き続けなければならないと感じています。

## これまでの留学生活

日本での留学を決めた私は、早稲田大学美術史学コースに入学しました。本コースは、中世・近世の日本の美術史の研究環境が充実しているのだけではなく、中国美術を専攻している大学院生も多いです。とても有利な研究環境に恵まれ、研究も順調に進めてきました。国際学会での口頭発表や学術誌での論文発表をしながら、論文の執筆に力を注いだ3年間でした。また、日本各地での現地調査だけではなく、日本の学者を案内して中国での美術合同調査も行ってきました。重慶大足石刻、西安大仏寺、敦煌石窟を経て、今年はチベットのラサと一番西にあるガリ地区で合同調査を行いました。自分の研究を促進するだけではなく、中日学術交流の懸け橋として活躍できることが、私にとって一番の喜びです。

## 将来の計画

現在の研究は染織工芸史、中日美術交流史、大蔵経の研究史などに関わるものであり、できれば多分野において自分の研究を活かしたいと考えています。まずひとつは研究の成果を研究書として出版し、中国の学界に日本の名物裂を紹介して、染織品の修復及び研究上の連携を促進したいと思っています。さらには展覧会を企画・開催して、多くの人々に名物裂の美、染織の美、中日美術交流の盛況を知って欲しいです。もうひとつには、本研究は装幀の角度から大蔵経(特に明代の永楽北蔵)を考察して、現地調査に基づいたデータベース(主に中国と日本の作品)を作りました。現在アメリカウエスト大学の龍達瑞教授と相談して、装幀を含めて世界的範囲で永楽北蔵のデータベースを作るつもりです。

私はこれまで茶道や歌舞伎を中心に文化交流を行ってきました。引き続き中日学術文化交流の懸け橋となるために頑張りたいと思っています。



調査の様子

# 死を悼むモニュメントを巡って

## —戦争の記憶の忘却について

実践女子大学美学美術史学科 主任教授 椎原 伸博



本年は美学美術史学科創設 30 周年にあたり記念式典を、渋谷キャンパスで開催される常磐祭期間中の 10 月 18 日に行います。その内容は、第 I 部として 1、6、8 期卒業生から在校生向けのキャリア講演会、第 II 部として島田紀夫名誉教授による「クロード・モネ《印象、日の出》を巡って」という講演会を開催いたしますので、ぜひご参集ください。

美学美術史学科は創設 30 周年ですが、本年は戦後 70 周年ということで、第二次世界大戦の見直しが、い

たるところで行われております。美術の領域では、様々な美術館で戦争や戦争画に関する展覧会が開かれました。このような見直し作業は、区切りのよい周年に行われるのが常で、欧州では昨年 2014 年は第一次世界大戦の開戦 100 周年で同様の見直しが行われていました。

### エリュアールが詠ったパリの守護者像

ところで、シュルレアリスムの詩人として知られるポール・エリュアールは、1926 年に『苦悩の首都』という詩集を発表します。その詩集の中に「戦時下のパリ」と言う詩があり、ある彫刻作品について詠っています。エリュアールは、この詩集の中でピカソ、ブラック、キリコ、クレイ、マッソン、エルンストといった同時代の画家の名を題にする詩を発表しているように、造形芸術家との交流で知られる詩人です。また、1937 年には「ゲルニカの勝利」という詩を発表するように、反ナチス、レジスタンスの活動家となります。

「戦時下のパリ」では、女神のような像の美しさと戦時下の恐ろしい光景が対比されています。第二連の四行



図1. カルーゼル広場に設置された像



図2. エレンブルグの写真集に掲載された像

を引用すると以下のようになります。

彼女は美しい、愛の生き生きとした立像よ  
 おお 真昼の雪よ、全てを踏みつける太陽よ、  
 おお 天使の顔の上の 睡眠の炎  
 そして全ての夜の上の そして全ての顔の上の

この立像のモデルは、彫刻家アルベール・バルトロメによって制作された、パリの守護者像(死を悼むモニュメント)であるとされています。制作に関する詳細は定かではないのですが、1921 年にはルーブル美術館からチュイルリー庭園を結ぶ、カルーゼルの凱旋門広場に設置されています。

図 1 は当時の絵はがきですが、Paris 1914-1918 と記され台座の上の立像は、左足を前に踏みだし、両手は前方につきだして剣を握りしめ、左上方を向いている頭はヘルメットを被っています。しかし、身体を包む布は左肩から、下方へ流麗な曲線を示すも、二つの乳房はさらけ出したままです。エリュアールは戦士としての勇敢さと女性らしい女神の共存に反応したのでしょうか。

### 写真集の中の守護者像

フランス近代彫刻史の視点からすれば、バルトロメはペール・ラシェーズ墓地のモニュメント、あるいは日本とのつながりからすれば、浮世絵をフランスに紹介した林忠正のデスマスクで知られています。しかし、この立像については残念ながら忘却の中にあると言わざるを得ません。とはいえ、私の興味はこの立像の美術史的な位置づけではなく、その立像の受容の方にあります。それは、エリュアールの詩でいえば、「戦時下のパリ」と「ゲルニカの勝利」の間の時期、特に 1930 年代のパリにおけるこの立像の表象についてです。

この時代は、ナチスが台頭しファシズムが浸透していく時代です。そして、1935 年にパリでは「文化の擁護のための国際作家会議」が開催され、ジイドやブレヒト、マンといった著名作家たちがファシズムに対抗しました。そして、ソ連からはイリヤ・エレンブルグが参加していました。エレンブルグはロシア革命以前にパリに亡命した作家で、のちにスペイン内戦にも参加します。そのエレンブルグは 33 年からパリの町中をライカで撮影し、35 年にモスクワで『私のパリ』という写真集を出版します。

図 2 は『私のパリ』の扉頁あけて直ぐの 4 頁で、そこには左に傾いた形で二枚の写真が掲載され、バルトロメの立像を始点とする矢印の先には、パリのベンチに座り込む、足を失った浮浪者の写真が逆さに掲載され

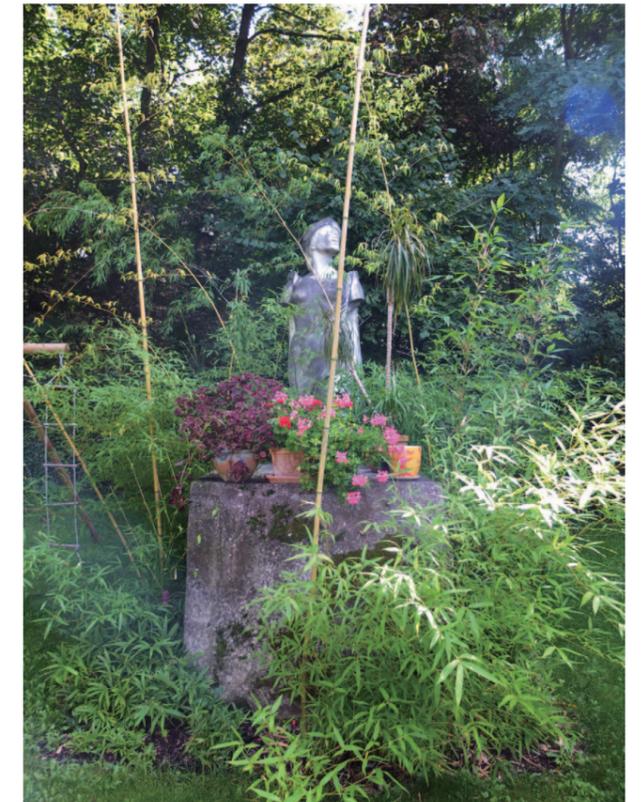


図3. 死を悼む像の現在

ています。『私のパリ』では、花の都パリというよりは、非衛生と貧困のパリ、様々な社会矛盾を有する日常生活が赤裸々に報告されています。それは、第一次世界大戦の矛盾と第二次世界大戦への不安が交錯する世界といえるでしょう。

### 失われぬ造形美こそ

さてバルトロメの立像は、カルーゼル広場から撤去され、現在はヴァンセンヌの森の奥深い私邸に密やかに放置されています。その撤去過程においてなのか、剣を握りしめる両手は二の腕の途中で失われトルソ像のようです。現在の家主にこの立像の由来を聞いても詳細はわかりませんでした。まさに、忘却の彼方にあるかのようなのです。

私はこの立像の現在にたどり着いたとき、悲惨な出来事の記憶を偶像化することの限界を感じました。そもそも、こういった立像は戦争を美化する道具へと変容する両刃の剣かもしれません。すると、剣を失った女神は、緑深い場にあつて遊具と洗濯場の間にある、平和な日常生活のなかで、ただただ造形美を讃えていることこそが、平和の証であるとさえ思えてきたのです。そして、芸術作品の存在理由もそこにあるといえるでしょう。

(しいはら のぶひろ)

# 一夫一婦制に「ノー」 —オナイダ・コミュニティを訪ねて

実践女子大学文学部英文学科・主任教授 稲垣 伸一



2013年度在外研究でアメリカ・ニューヨーク州の中央部シラキユースという都市に1年間滞在しました。

日本を出発する前から、是非訪ねてみたいと考えていた場所が、シラキユースから車で1時間ほどのところにある「オナイダ・コミュニティ」の歴史を伝える施設でした。

オナイダ・コミュニティとは、1848年独特のキリスト教信仰に共鳴する人々を率いて、ジョン・ハンフリー・ノイズがヴァーモント州から移ってニューヨーク州オナイダの地に建設したコミュニティです。19世紀アメリカでは、同じ種類のキリスト教信仰で結びついた人々や、ヨーロッパから伝わったユートピア思想の影響を受けた人々が、自分たち信仰や信条に基づいてたくさんのコミュニティを建設した時代でした。その多くは短命に終わりましたが、オナイダ・コミュニティはこの地で30年以上続いた例外的に長命なコミュニティでした。

## かなり「禁欲的」だった多婚制度

オナイダ・コミュニティの最大の特徴は「複合結婚」という一種の多婚制度を実践したことです。要するに一夫一婦制による既存の結婚制度ではなく、男女がその時の感情に従って結びつくというもので、このような制度は乱れた男女関係をコミュニティ外の人々に想像させ、当然非難の目で見られます。

しかし実際の複合結婚は、どうも人々が想像したものとは逆で、非常に禁欲的な制度だったようです。指導者ノイズの思想では、男女の関係は生殖(子孫を残すことが目的)と性愛という二つの目的に分けられていました。コミュニティでは生殖を目的とする男女関係はノイズが許可したものに限られ(このこと自体、今日的には「問題あり」と思いますが)、性愛を目的とする男女関係では「男性の抑制」と呼ばれる厳しい禁欲的な態度を男性の側に要求しました。



男女が談笑する19世紀オナイダ・コミュニティの風景(女性はブルーマーにショート・ヘアというスタイル)

19世紀半ば頃アメリカの夫婦の間では、度重なる出産によって妻の健康が損なわれる例が多く見られました。そのため、オナイダ・コミュニティが複合結婚によって男性に禁欲的な態度を要求したことは、女性の身体、女性の健康を意識した結果だったと考えられます。

## 女性解放のシンボル、ブルーマーを推奨

もう一つ、オナイダ・コミュニティが女性の健康を気遣うコミュニティだったことを示すものとして、19世紀当時のアメリカで一部の人が主張していた衣服改革という思想があります。

衣服改革には、コルセットでウエストを締め付ける長いドレスを否定することにより、女性を解放するという意義がありました。19世紀アメリカの女性たちは「女性らしさ」を求められて、不健康な服装を強いられていたからです。ドレスに代わる服装として推奨されたのが、女性解放運動家アメリア・ブルーマーが考案したとされる「ブルーマー」(日本ではかつて小中学校の女生徒用の体操着がこう呼ばれていました)でした。

オナイダ・コミュニティの女性たちは当時の典型的な女性の服装ではなく、スカートとズボンを組み合わせたようなブルーマーにショート・ヘアというスタイルで普段の生活を送っていました。こうした事実は、このコミュニティに19世紀半ばのアメリカで芽生えつつあった女性解放思想が浸透していたことを示しています。

## フェミニズムの時代の始まり

ところでオナイダ・コミュニティから車で西に2時間ほど行くと、セネカ・フォールズという小さな町があります。ここでアメリカ初の女性の権利を求める大会が開かれ、以後女性参政権が合衆国憲法で認められる1920年までは「第一波フェミニズム」の時代と呼ばれます。その女性大会が開かれたのが奇しくも、オナイダ・コミュニティ成立の年1848年です。のちにアメリカ女性史のなかで記念すべき出来事となるこのセネカ・フォールズ女性大会の年と「女性にやさしい」オナイダ・コミュニティ成立の年が同年で、しかも二つの場所は同じニューヨーク州中央部でした。

19世紀半ば、女性に関わる動きが活発化したこの地域独特の事情を探ること、このことが在外研究の地にニューヨーク州中央部を選んだ一つの理由でした。

2013年5月、念願かなって、現在も残されている「マンションハウス」と呼ばれるオナイダ・コミュニティの建物を私は訪問しました。そこにはコミュニティの歴史を伝えるため保存されている部屋があり、他の部屋にはアパートとして人が住み、当時の礼拝堂は現在も使われていました。私が訪問した土曜の午後、礼拝堂では地元のカップルの結婚式が行われていました。一瞬、「複合結婚?」と想像が19世紀に飛びましたが、いえいえ、それは幸せなふたりを祝うもちろん一夫一婦制の結婚式でした。(いながき しんいち)



現在も使用されているオナイダ・コミュニティのマンションハウス

## マーケティング： 外向きの視点と他者との連携・ 協働による成長を!

人間社会学部現代社会学科 准教授 齋藤 明



私は、20年余の民間企業勤務を経て、2014年4月の渋谷キャンパスへの移転とともに、人間社会学部現代社会学科にマーケティング論担当教員として着任いたしました。

マーケティングというのは、「買ってもらうための仕組み作り」とされ、経営学研究の一部と捉えられています。その一方で、経営学研究の中でも特異領域ともみられています。その理由は、マーケティングという研究領域が持っている視点の向きです。経営学は、基本的には組織の内部資源の配分といった組織の内部に視点の向きがあります。マーケティングは、基本的には顧客や競合企業といった組織の外部に視点の向きがあります。

こうした意味で、渋谷キャンパスは、マーケティングを探求する学生にとって最高の場であるといえます。

ひとつは、その立地です。渋谷、青山、原宿、六本木という日本のみならずアジアでも最先端の発信力を有する街に囲まれています。視点を外に向けて、消費生活のトレンドや流行の最先端、世の中の動きを観察するには絶好の場所です。

もうひとつは、人間社会学部において用意されている多様な授業科目群です。経済・経営関連の授業科目はもちろんですが、心理学や社会学の理論的なフレームワークを基礎に、消費者や生活者のことを深く理解することが求められます。また、企業やマーケティング活動のグローバル化にともない、外国語の習得はもとより、対象市場における社会、経済、産業、文化、習慣等への理解には国際関連科目の探求が不可欠となります。このようにマーケティングの探求は、外向きの視点という特徴から、常に他の学問分野や異なる背景を有する他者との連携・協働を志向しています。

このような外向きの視点や他の専門分野や背景を有する他者との連携・協働を目的に、3年生を中心としたマーケティング演習(ゼミ)の課題活動としても様々な活動を通じて、マーケティングを探求しています。

ひとつめは、実践『ペルソナ通信』のほぼ週刊での発行です。これは、マーケティング・リサーチの枠組みをベースに、アンケートと写真観察の調査方法を駆使して、実践女子大自身の実際を明らかにする市場調査レ



3. ほぼ毎週発行される実践『ペルソナ通信』

ポートです。

2つめは、企業の魅力を発見する『MIRYOKU ★発見』プロジェクトです。これは、アクティブラーニングを推進するNPOとの協働により、様々な業種の企業へのインタビュー取材実施をもとに、その企業の魅力(競争優位性、組織的特色など)を発見するプロジェクトです。

この企業へのインタビュー取材に際しては、事前に業界動向や対象先企業研究などの調査し、経営戦略論における理論フレームワークの視点で、企業へのインタビュー項目を作成し、取材当日に臨みます。取材後、取材先企業の魅力を論理的な文章作成を通して記事にし、公開していきます。

これら2つのプロジェクトは、マーケティング演習のゼミ生に閉じることなく、『ペルソナ通信』では、統計科学、経営学の各ゼミ生とあわせて、42名の学生が、『MIRYOKU ★発見』プロジェクトでは、経営学、会計学の各ゼミ生とあわせて、25名の学生が、所属ゼミの枠を超えて活動し成果を出しています。

3つめは、企業との連携による実践的な学習を目的に、様々な企業のご協力により、ゼミ生による課題解決提案機会をいただいていることです。2015年前期だけでも、広告会社、テーマパーク、ファッションブランド、旅行会社などにご協力をいただいております。

特に、明治座さまには、明治座10月公演『五木ひろし特別公演』(公演期間:2015年10月2日~26日)でのPR企画提案の機会をいただきました。先日(8月28日開催)開催された制作記者発表イベントの前後での準備や運営において、学生(人間社会学部3年の貫井・阿部・塩川の3名の学生が担当)自ら明治座担当者さまとの打ち合わせや調整実施など、広報・PRを特に専門的に探求しているゼミ生にとって、またと無い成長



4. 『MIRYOKU ★発見』プロジェクトでの企業への取材の様子

の機会となっています。

こうした明治座さまとのプロジェクトは企画段階から約3ヶ月間の長期にわたりました。担当した学生にとっては、大学内外の関係者との連携・協働の中で、貴重な学びを獲得でき、今後の大きな財産となることは間違いのないでしょう。

是非、これをきっかけに、実践女子の後輩たちのがんばりをお感じいただきながら、この明治座10月公演をご観劇いただければ幸いです。

(さいとう あきら)

◎明治座10月公演(『五木ひろし特別公演』(公演期間:2015年10月2日~26日)の詳細は、以下のHPにてごらんください。  
明治座HP: [http://www.meijiza.co.jp/info/2015\\_10/](http://www.meijiza.co.jp/info/2015_10/)  
★ゼミ生が制作記者発表イベントを手伝っていただきましたので、是非、観覧にいらしてください!

◎『ペルソナ通信』の創刊号から最新号については、以下の学部HPで順次公開中  
[https://www.jissen.ac.jp/learning/human\\_sociology/index/persona.html](https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/index/persona.html)

◎『MIRYOKU ★発見』プロジェクトの様子は、学部公式Facebookで順次公開中



1. 記者発表イベント終了後の五木ひろしさん、由紀さおりさんと実践女子大生



2. 明治座10月公演のご案内

## 地区懇談会の報告

平成 27 年 8 月 29 日(土)  
会場:ホテルセンチュリー静岡  
1 公開市民講座  
講師・二十六世観世宗家 観世 清和 師  
演題・[能と源氏物語 ～「葵上」を中心に～]  
2 学園関係者、実践桜会役員、静岡支部会員との懇談会  
3 実践女子大学・短期大学部後援会、実践桜会との懇親会

## 学祖祭

平成 27 年 10 月 8 日(木)  
学園関係者と護国寺墓参をし、中高香雪記念館内の祭壇に参拝。  
実践桜会会館にも祭壇を設置し、実香会による厳粛なるお供え香の儀を挙行、参拝。  
その後はご宗家による余香の会を開催。

## 実践桜会バザー開催

日時:10月24日(土)・25日(日) 9:30～15:30  
会場:中高体育館ギャラリアアリーナ  
全国各支部の物産品、科会・会員の手作り品や寄贈品、また協力店様からの格安な品物も多数並びます。各種弁当の販売もございます。皆様お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。(宅急便も利用可)  
\*寄贈品ご提供のお願い:10月17日(土)まで受け付けます。  
\*鮮度を要する食品は10月22日(木)まで。HPにも掲載。  
〒150-0011 東京都渋谷区東1-1-40 実践桜会文化部宛  
TEL:03-3407-7459 FAX:03-3499-0835

## 実践桜会全国交流ツアー 学祖下田歌子の故郷岩村への旅

期日:平成27年11月14日(土)～15日(日)  
会場:恵那峡グランドホテル  
下田歌子先生縁の地を、国文学科湯浅茂雄教授と巡ります。

## 初春歌舞伎観劇会

日時:平成28年1月10日(日)  
場所:国立劇場  
演目:小春穂沖津白浪 河竹黙阿弥作  
出演:尾上菊五郎、菊之助、中村時蔵 他  
チケット代1万1千円(含お弁当、解説イヤホン付)  
お問い合わせ・お申し込みは。実践桜会事務局へ  
TEL:03-3407-7459 FAX:03-3499-0835

\*五月花形歌舞伎観劇会が5月26日、明治座にて行われました。

## 会費納入のお願い

一般社団法人教育文化振興実践桜会の運営・活動は皆様の会費によって支えられています。会費未納のかたは、振込用紙にてゆうちょ銀行および実践桜会本部窓口でご納入願います。また、下記の銀行口座をつかい、銀行振り込みもご利用ください。  
みずほ銀行 渋谷中央支店(162)  
口座 番号 普通 1189795  
一般社団法人教育文化振興実践桜会  
なお、振込用紙がない場合は、実践桜会会館までご連絡ください。TEL:03-3407-7459 FAX:03-3499-0835  
\*いずれの場合も会員番号のご記入をお願い致します。

## 実践桜会会館利用サークルのご案内

サークル名	活動曜日	主な内容
アトリエ染花	第1日曜日	工芸・飾り花
編み物の会	第3金曜日	工芸・編み物
実践桜会囲碁教室	第2・4月曜日	囲碁
英文輪読会 A	第2・4金曜日	英文学
英文輪読会 B	第1・3金曜日	英文学
実践絵手紙の会	第3日曜日	絵手紙
かえで(楓)会	第2火曜日	染色
桂泉会	月2回土曜日	華道古流
香友会	不定期	香道
桜書道教室	第1・3土曜日	芸術・書道
下田歌子先生の著作を読む会	第3日曜日	研究会:下田先生を広く知る
山川園松箏曲教室	月2回土曜日	山田流箏曲
童の会	不定期	文学・児童の研究と創作
十八の会	不定期	懇親会
ハーダンガーの会	第2木曜日	工芸・ハーダンガー刺繍
北欧刺繍に親しむ	不定期	北欧刺繍
マンドリンクラブOG会	不定期	音楽・マンドリン
実香会	第3土曜日	香道
萌黄会	第1月曜日・第3木曜日	日本刺繍
日本ギヤスケル協会	第1又は第3日曜日(不定期)	ギヤスケルの研究
日本バーナードショー協会	不定期	バーナード・ショーの研究
北欧クロスステッチ	不定期	北欧刺繍
JJF 総会	不定期	実践女子学園に在籍中の子女を待つ父親の会
青脈会	不定期	山岳部OB会
ハワイアンスクール	第1・3火曜日	健康フラとウクレレ

2015.09 現在/お問い合わせは会館事務局へ

ホームページに掲載する投稿記事や写真をお寄せ下さい。  
広報部メールアドレス:jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp

## 第17回「実践女子大学・同短期大学部ホームカミングデー」開催について

平成27年度第17回「実践女子大学・同短期大学部ホームカミングデー」(大学・短期大学卒業生対象)を下記のとおり開催いたします。ぜひご参加ください。  
開催日:平成27年10月18日(日)常磐祭開催中  
会場:渋谷キャンパス実践女子大学創立120周年記念館  
受付:12:00～  
講演会:13:00～13:50(6階601講義室)  
①朗読劇『女子の修養』実践女子学園高等学校演劇部  
②小説『凜として』作者 仲俊二郎氏講演  
懇親会:14:00～15:30(ファカルティラウンジ他17階)

## 向田邦子文庫展示室

「向田邦子を知る③—作家として—」展を開催します。  
日時:平成27年11月9日(月)～平成28年3月22日(火)9:00～17:00  
直木賞受賞の舞台裏も書いてある、山口瞳氏の「向田邦子は戦友だった」の自筆原稿を展示します。  
閉室日:日曜・祝日及び平成27年11月4日(水)～11月7日(土)

## 香雪記念資料館

第15回 学祖・下田歌子展(仮)  
日時:平成27年11月9日(月)～平成27年12月18日(金)  
休館日:土曜・日曜  
開館時間:11:00～17:00  
会場:実践女子学園香雪記念資料館 企画展示室

## 下田歌子研究所

講演:実践女子学園 下田歌子研究所 シンポジウム「学祖研究の現在」  
日時:平成27年11月21日(土)14:00～18:00  
場所:渋谷キャンパス創立120周年記念館403教室  
※詳細については、ホームページでお知らせいたします。

## 公開市民講座

<渋谷キャンパス>  
●短期大学部 日本語コミュニケーション学科  
日時:平成27年10月17日(土)13:00～16:00  
内容:編集者と語る『本間一夫と日本点字図書館』～岩波新書「指と耳で読む」の原稿  
\*平成27年10月12日(月)～平成27年10月18日(日)

の期間は、香雪記念資料館にて特別展示を開催

●文学部国文学科  
(第1回)  
日時:平成27年10月31日(土)13:00～16:30  
内容:①『論語』のさまざまな読み方と解釈  
②『論語』のテキストについて  
(第2回)  
日時:平成27年11月1日(日)13:00～16:30  
内容:①近代文学者の孔子像～武者小路実篤を中心に～  
②特別講演「宥坐の器」制作秘話  
\*平成27年10月25日(日)～平成27年11月1日(日)の期間は、香雪記念資料館にて特別展示を開催

<日野キャンパス>

●食生活科学科  
日時:平成27年10月10日(土)11:00～14:00  
内容:家庭でできる薬膳料理

●生活環境学科  
日時:平成27年11月28日(土)13:00～15:30  
内容:震災時の衣食住 いろいろ体験しておこう!

●現代生活学科  
日時:平成27年12月12日(土)13:00～15:30  
内容:女性の起業(シゴト)と暮らしを考える

\*詳細は学園ホームページをご覧ください。

### 新刊紹介

高橋 雄四郎 著  
『キーツの想像力——妖精・牧歌』  
2015年5月15日 羽羽書房鶴見書店



キーツ(John Keats 1795～1821)はイギリスのロマン派詩人。自然美を愛し、詩の題材とした。本著はキーツと宮沢賢治の間にある共通性に触れている。「キーツの妖精詩に自然崇拜、アニミズムがあり、地水火風は想像力の問題となる。／宮沢賢治は、自然の中で人間は生かされていると考える。生きものはみな平等であり、万物の霊長など存在しないとする彼は、鉱物、神羅万象にまで人格、感情を与えて擬人化する。」(「宮沢賢治の妖精——自然観より」)  
英・日両詩人の丁寧な比較検討からは、著者の豊かな思索の一端を垣間見る思いがした。時代や東西の違いはあれど、詩人が自然に向ける眼差しの奥深さに、あらためて感銘を受ける。キーツも賢治も、自然をまえに少年のようにみずみずしく無垢である。ロマンティズムとリアリズムとは相いれないものではない。むしろ現実には見えない世界を想像し、あるが如くに言葉を紡ぐ、という表裏の関係であるともいえるのではないか。本書を通じてあらためて気づかされた。

【総務部】

- 1) 理事会 (15 回)、常任打合せ会 (10 回) の開催
- 2) 春季運営委員会の開催 (4 月 12 日)
- 3) 定時総会の開催 (5 月 18 日)
- 4) 公開市民講座、同地区懇談会 (9 月 13 日)  
(大学・短期大学部後援会／実践桜会共催 於:高崎) 群馬県支部との懇談会開催
- 5) 学祖祭 (10 月 8 日)  
護国寺墓参、中高香雪記念館内祭壇参拝  
実践桜会会館内祭壇設置、実香会によるお供え香
- 6) 秋季運営委員会 (10 月 11 日)
- 7) 大学・短期大学部「常磐祭」に参加 (10 月 18・19 日 11 月 8・9 日)
- 8) 祝成人の会共催 (1 月 12 日)
- 9) 系列科会、支部への助成事業 (44 団体)
- 10) 入学・卒業祝い記念品贈呈 (4 月、3 月)
- 11) コンピュータによる名簿管理と会員サービス事業
- 12) 実践桜会会館・日野分室の管理

【事業部】

- 1) 学園助成金贈呈 (5 月 18 日)
- 2) 実践桜会奨学基金: 学園高校生 2 名に給付
- 3) 実践桜会国際交流基金: 留学生 4 名に給付 (奨学生交流会を 10 月と 3 月に実施)
- 4) 社会活動助成金支給: 学園関係 1 団体、12 支部、5 科会
- 5) 大学・短期大学部「常磐祭」へ協賛金と桜会賞を贈呈
- 6) 結婚相談 (第 2、第 4 土曜日)
- 7) 法律相談 (第 2 水曜日)
- 8) 生涯活動学習支援
- 9) 貸室業務
- 10) 実践桜会所蔵図書の貸出しと整備・購入

秋田先生の法律相談

桜会会員の皆さまを対象に、弁護士として豊富な経験と実績をもつ秋田瑞枝氏 (同窓生) による法律相談です。毎月 1 回、実践桜会会館で行いますので、身の回りの諸事お困りごとをお気軽にご相談ください。秘密厳守をお約束します。

- [相談室]
1. 月 1 回、第 2 水曜日 11 時～16 時
  2. 相談時間 1 回 30 分
  3. 休室 祝日・8 月
- [会場] 実践桜会会館 (渋谷)



- [申込方法]
1. 事前に電話で予約してください (先着順)
  2. 関係資料などは相談時にご持参ください

プロフィール ● 昭和 40 年実践女子学園高等学校を卒業後、慶應義塾大学法学部法律学科に進学。在学中に司法試験第 2 次試験に合格、昭和 54 年港総合法律事務所 (東京港区) 開設、平成 9 年ひのき総合法律事務所開設

【文化部】

- 1) 実践桜会バザー開催 (10 月 25・26 日)  
於: 実践女子学園中高ときわ祭一中高体育館ギャラリーアリーナ会場
- 2) 初春歌舞伎観劇会 (平成 27 年 1 月 11 日)  
於: 国立劇場
- 3) 母校記念品販売取扱

【広報部】

- 1) 「那与竹」第 77 号発行 (4 月 1 日)
- 2) 「なよたけ情報版」No. 20 発行 (10 月 1 日)
- 3) 実践桜会公式ホームページの管理・運営
- 4) 「那与竹」第 78 号の編集

【キャリアネット】

- 1) 運営委員会 毎月 1 回 開催
- 2) 総会と講演会 (6 月 16 日) 「母として、ルポライターとして“今”を探る」  
講師: 黒川祥子氏 2103 年開高健ノンフィクション賞受賞のルポライター
- 3) セミナー開催  
・11 月 15 日桜会会館 「働く女性のための、簡単きれいなメイク術」& 「働く女性たちのワークライフバランス」  
講師: 津田氏 資生堂ビューティトップスペシャリスト 松本氏 資生堂参事  
・2 月 21 日 桜会会館 「母校実践に帰ろう！」  
講師: 湯浅茂雄氏 下田歌子研究所所長
- 4) 在校生就職支援相談会開催 (11 月 15 日) 「在校生のための就職相談会」 (於: 渋谷)
- 5) OG 派遣 キャリアセンターからの依頼で会員を派遣 (2 月 25 日於: 渋谷 / 2 月 28 日 於: 日野)
- 6) 卒業生のための就職・転職相談会開催 (毎月第 4 土曜日)

平成 26 年度  
会館利用状況  
(平成 27 年 3 月 31 日現在)

月	件数	人数
4	31	263
5	37	450
6	43	443
7	31	276
8	15	101
9	39	352
10	29	268
11	38	328
12	22	146
1	25	231
2	29	245
3	39	342

合計 378 件 3445 名

貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日現在

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産	14,077,040	15,268,166	△ 1,191,126
2 固定資産	238,433,222	243,257,106	△ 4,823,884
(1) 基本財産	27,966,601	27,966,601	0
(2) 特定資産	66,120,100	69,134,568	△ 3,014,468
(3) その他の固定資産	144,346,521	146,155,937	△ 1,809,416
資産合計	252,510,262	258,525,272	△ 6,015,010
II 負債の部			
1 流動負債	3,181,508	3,121,385	60,123
2 固定負債	54,110,100	54,084,568	25,532
負債合計	57,291,608	57,205,953	85,655
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	93,676,601	96,196,601	△ 2,520,000
2 一般正味財産	101,542,053	105,122,718	△ 3,580,665
正味財産合計	195,218,654	201,319,319	△ 6,100,665
負債及び正味財産合計	252,510,262	258,525,272	△ 6,015,010

正味財産増減計算書

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

(単位: 円)

科 目	当年度	前年度	増減額
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	39,082,133	35,318,210	3,763,923
(2) 経常費用			
事業費	29,970,497	27,195,193	2,775,304
管理費	12,692,301	11,664,889	1,027,412
経常費用計	42,662,798	38,860,082	3,802,716
当期経常増減額	△ 3,580,665	△ 3,541,872	△ 38,793
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,580,665	△ 3,541,872	△ 38,793
一般正味財産期首残高	105,122,718	108,664,590	△ 3,541,872
一般正味財産期末残高	101,542,053	105,122,718	△ 3,580,665
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	△ 2,520,000	△ 2,220,000	△ 300,000
指定正味財産期首残高	96,196,601	98,416,601	△ 2,220,000
指定正味財産期末残高	93,676,601	96,196,601	△ 2,520,000
III 正味財産期末残高	195,218,654	201,319,319	△ 6,100,665